

第7版

ブックスタート・ハンドブック

全国の実践事例を事業運営のヒントに

NPOブックスタート





[第7版]

ブックスタート・ハンドブック

全国の実践事例を事業運営のヒントに

この冊子について

- 本冊子は、ブックスタート事業の運営を担う、自治体職員向けの資料です。
- 全国で蓄積されてきた様々な実践経験。NPO ブックスタートではそれらを、各地域での事業の立ち上げから実施、さらなる充実に役立てていただきたいと思います。
- 事業運営に関する情報を、開始から評価まで、113の事例とともにまとめています。ぜひご活用ください。

NPO ブックスタート

目次

第1章	ブックスタートとは	1	ブックスタートの概要	6
			ブックスタートとは／イギリスで発祥／日本での広がり／ブックスタートの大切な5つのポイント／世界での広がり	
		2	「ブックスタート」とNPOブックスタートの役割	8
			市区町村単位の活動として／「ブックスタート」の名称とロゴマーク／NPOブックスタートの組織概要	
		3	ブックスタートで実現できること	10
			視点① 母子保健／視点② 子育て支援／視点③ 読書支援／視点④ まちづくり	
			専門家から見たブックスタートの可能性	12
			教育心理学・秋田 喜代美／発達心理学・大日向 雅美／小児科医・榎原 洋一／乳幼児発達研究・佐々木 宏子	
第2章	事業を計画する	1	事業運営に必要な項目を洗い出す	16
			運営のサイクル	
		2	予算を確保する	18
			予算要求額を見積もる／予算獲得のための工夫／寄付を受けた際の対応	
		3	各機関と連携する	22
			なぜ連携が必要なのか／活動の目的と連携機関の役割を明確に／事務局担当課の役割／市民との協働／ボランティアを募集する	
		4	研修を行う	25
			目的に合わせて企画する／活動への共通認識を持つ／赤ちゃん・子育て・絵本に関する情報を知る／関係者のモチベーションを保つ	
		5	スタッフ向け手引きを作成する	29
			親子への対応をスムーズにするために	
第3章	実施機会を設定し、充実させる	1	実施機会を設定する	32
			すべての親子がブックスタートに参加しやすい機会を選ぶ／集団健診で実施するメリット／0歳児集団健診以外での取り組み／ブックスタートのための機会を設定する／対象月齢を設定する／開始時期を設定する／コラム 心理相談員・田丸 尚美	
		2	パックを手渡せなかった対象者へのアプローチ方法を考える	38
			子育てに困難さを感じている保護者にこそ伝えたいこと	
		3	対象者へ周知する	40
			事前に周知する意義	

4	実施する「場」をつくる	42
	親子がリラックスできる雰囲気づくりを／健診の流れに組み込むタイミング／ブックスタートのコーナーをつくる	
5	絵本をひらく「体験」とともにブックスタート・パックをプレゼントする	48
	絵本をひらく「体験」と「絵本」をセットでプレゼントする意味／一組一組に絵本をひらく時間の楽しさを伝える	
6	外国語を母語とする対象者への対応を考える	50
	外国語を母語とする保護者に活動の趣旨を伝える	
7	障がいのある対象者への対応を考える	52
	障がいのある人も絵本のひとときを楽しめるように／絵本を用意する	
8	ブックスタート・パックの内容を決める	54
	ブックスタート・パックとは／絵本／手渡す絵本は「最初のきっかけ」／手渡す絵本の冊数・タイトル／ブックスタート赤ちゃん絵本／特別な価格と流通による絵本の提供／アドバイス ブックレット「赤ちゃんといっしょにはじめまして 絵本」／布製バッグ／封筒・ポリ袋／絵本リスト／図書館案内・利用登録用紙／おはなし会などの案内／子育て支援情報	
9	スタッフ用アイテムを用意する	62
	エプロン／名札／スタンプ／赤ちゃんをあやすアイテム	

第4章 事業を振り返る

1	事業評価をまとめる	66
	事業評価の目的を明確にする／評価方法を考える／データを集計・分析する／評価結果をまとめ、活用する	
2	情報・経験を共有する	69
	蓄積された情報や経験を活かすために／行政内に理解者を増やす	

第5章 広報やフォローアップを行う

1	市民に広報する	74
	一般市民に事業をPRする／様々な世代が活動に参加する	
2	フォローアップ活動を行う	77
	フォローアップ活動の意義／絵本・赤ちゃんをテーマにした取り組みや催し	
3	赤ちゃんが訪れる施設の環境を整える	79
	図書館の環境整備／その他の施設での環境整備	

ブックスタート会場で親子に接するスタッフ向けに……
「ブックスタート・スタッフガイド」も併せてご覧ください



第 1 章

ブックスタートとは



「ブックスタートって、どんな活動？」

「この活動を通して何が実現できるの？」

「NPOブックスタートって何をしている団体？」

この活動に初めて関わる方、活動の原点を再確認したい方は、まずはこの章に目を通してみてください。ブックスタートのあゆみや活動の理念、地域にもたらされる様々な変化をご紹介します。

1 ブックスタートの概要

イギリスに次いで世界で2番目に開始した日本のブックスタート。活動は、全国各地から注目され、実施する自治体が増えてきました。そして現在、ブックスタートに対する共感の輪は、世界にも広がっています。

ブックスタートとは

ブックスタートは、0歳児健診などの機会に、絵本をひらく楽しい「体験」と「絵本」をセットでプレゼントする活動です。抱っここのぬくもりの中で絵本を読んでもらう心地よさや嬉しさを「すべての赤ちゃん」に届けます。

赤ちゃんの幸せを願い、行政と市民が連携して行う自治体の事業です。

<ブックスタート・パック>

絵本を介した心ふれあうひとときを届けるため、その具体的なきっかけとして家庭でもすぐに読めるように、絵本が必ず入ります。絵本の冊数やその他のアイテム(趣旨を伝える冊子、バッグ、各地域で作成した資料など)は自治体によって異なります。



東京都葛飾区



愛知県豊田市

イギリスで発祥

ブックスタートは、1992年にイギリスで始まりました。絵本コンサルタントであるウェンディ・クローリングさんが、絵本を楽しんだ経験が一度もないという、ある男の子と出会ったことが、活動を発案したきっかけでした。

キャッチフレーズは、“Share books with your baby!”。絵本を「読む(read books)」のではなく、赤ちゃん和絵本を開く楽しいひとときを「共にする(share books)」。そのきっかけを、すべての赤ちゃんのもとへ届けようと、この活動は始まりました。2001年に、日本が世界で2か国目に開始して以降、世界各地にも広がっています。



Image©Bookstart UK
イギリス

日本での広がり

日本では、2000年の「子ども読書年」を機にブックスタートが紹介されました。同年11月、東京都杉並区での約200家庭を対象とした試験実施^{※1}を経て、2001年4月に12市町村で本格的な活動が始まり、その後全国各地に広がっています^{※2}。

ブックスタートは、市区町村の事業として、主に自治体の財源で実施されます。各地では、図書館・保健センター・子育て支援課・市民ボランティアなどが、赤ちゃんの幸せを願う気持ちを共有し、事業を運営しています。

※1
子ども読書年推進会議(子どもの読書に関わる約280の団体・企業・個人が参加)が杉並区の協力を得て実施。

※2
最新の実施自治体状況はNPOブックスタートWebサイトに掲載しています。
<http://www.bookstart.or.jp>

ブックスタートの大切な5つのポイント

「ブックスタートの大切な5つのポイント」は、イギリスから引き継いだ活動の理念と、日本各地の実践の中で大切にされてきたことをまとめたものです。活動に取り組む全国の自治体は、この5つのポイントを共有し、事業を行っています。

1

目的

赤ちゃん和父母者が、絵本を介してゆっくり心ふれあう
ひとときを持つ、きっかけをつくります

絵本は、赤ちゃんに優しく語りかけいっしょに過ごす時間を、ごく自然に作り出します。赤ちゃんとの絵本の時間は、「読む(read books)」ではなく「共にする(share books)」だと考えています。

※ブックスタートは早期教育の活動ではありません。

2

対象

事業を行う市区町村に生まれた、
すべての赤ちゃんとその保護者が対象です

保護者の中には、絵本にもともと関心がある方も、そうでない方もいます。ブックスタートは、赤ちゃんの生まれた環境に関わらず、大好きな人と絵本を開くきっかけを、すべての赤ちゃん和父母者のもとへ届けます。

3

機会

すべての赤ちゃんと出会う、
0歳児集団健診などで行われます

多くの自治体では、すべての赤ちゃんに出会うため、受診率が高い0歳児集団健診でブックスタートを実施しています。健診を集団で行っていない自治体では、他の保健事業や子育て支援事業などの機会に実施されています。

4

方法

絵本をひらく楽しい体験といっしょに
あたたかなメッセージを伝え、絵本を手渡します

ブックスタートでは、絵本をただ配るのではなく、一組ずつの赤ちゃん和父母者に、絵本を開く時間の楽しさをその場で体験してもらいます。実際の体験が、家庭でも絵本を開いてみようという何よりのきっかけになります。また、絵本をプレゼントすることで、家庭ですぐに絵本を楽しむ機会を持つことができます。

5

体制

市区町村の事業として、様々な分野の人が連携して実施します
特定の個人や団体の宣伝・営利・政治活動が目的ではありません

図書館・保健センター・子育て支援課・市民ボランティアなど様々な分野の人たちがアイデアを出し合い、協力して事業を進めることが、活動の充実や継続につながっています。



北海道恵庭市



熊本県南小国町



鹿児島県霧島市



福島県二本松市

世界での広がり

イギリスで生まれたブックスタートは、2 か国目として日本が開始して以降、世界各地にも広がっています。アジアでは韓国やタイで、欧州ではドイツやオランダで、また南米のコロンビアでも実施され、活動の理念は国境を越えて、赤ちゃんの幸せを願う人々に共有されています。



Image©thaiBBY
タイ

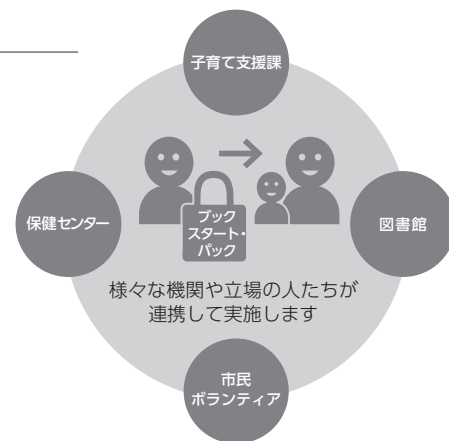
2 「ブックスタート」とNPOブックスタートの役割

「ブックスタート」は、市区町村で実施される活動の名称です。NPOブックスタートは、各地のブックスタート事業の立ち上げや、継続のための様々なサポート業務を行う非営利活動組織です。

市区町村単位の活動として

ブックスタートは、市区町村の事業として、主に自治体の財源によって実施されます。市民に公平なサービスを行う機会を持つ自治体が取り組むことにより、地域に生まれたすべての赤ちゃんとその保護者に活動を展開できます。

各自治体では、様々な機関が連携して事業を運営します。健診などで赤ちゃんに絵本を読んでブックスタート・パックを手渡すほか、配付絵本の選考、パックの手配、ボランティアの養成、対象者や市民への広報、赤ちゃんや絵本に関連する様々なフォローアップ活動などを行います。



「ブックスタート」の名称とロゴマーク

▶ 名称の使用について

「大切な5つのポイント」(P7 参照) を共有した活動に限り使用できます。

※ 「ブックスタート」の名称使用に際しては、当法人への申請が必要です。

NPO ブックスタートは、日本における活動の推進団体として、全国の自治体が、この名称を将来にわたり安心して使用できるよう努めています。そのため、第三者が宣伝や営利目的でこの名称を使用するなどして、各地の活動が誤解されたり支持を失ったりすることのないよう、法的保護の観点から「ブックスタート」を商標として登録しています。(登録番号第4684870号)

<使用できない事業・活動の例>

- ・ 第1子のみ、または希望者のみなど、対象者を限定した事業
(活動を行う市区町村に生まれた「すべて」の赤ちゃんが対象とされていないため)
- ・ 出生届け受付時などにおける絵本配布事業
(その場で絵本を楽しむ「体験」を届けることができないため)
- ・ 赤ちゃん向けおはなし会や、健診での絵本の貸し出し・読みかせなどの事業
(絵本を「手渡す」ことをしていないため)
- ・ 小中学生や成人を対象とした事業
(対象が「赤ちゃん」ではないため)

▶ 日本のロゴマークはラッコの親子

絵本画家・黒井健さんによるデザインです。

※ ロゴマークには著作権が発生しています。使用に際しては当法人への申請が必要です。



<ロゴマークに込められた願い>

ラッコの親はおなかの上で赤ちゃんを育てます。そんなラッコが、海の上でゆらゆらとリラックスしているように、すべての親子が、抱っこあたたかさの中で楽しい絵本の時間を過ごしてほしいという願いが込められています。

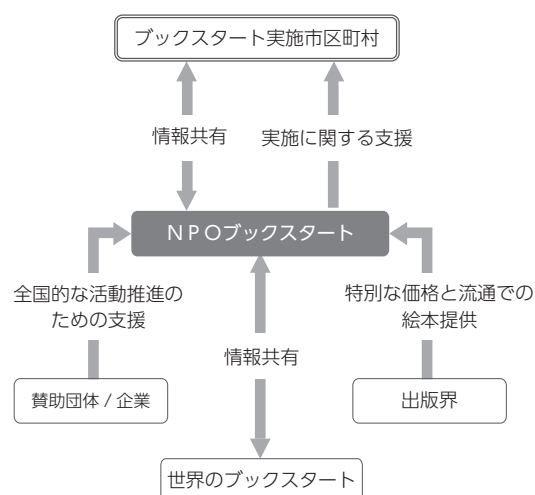
NPOブックスタートの組織概要

NPOブックスタートは、イギリスで始まった「ブックスタート」の理念を伝え、独立・中立的な立場から日本における活動を推進する、民間の非営利組織です。

全国各地の実践経験から得られた情報を集め、資料の発行や研修会開催などのかたちで発信するほか、ブックスタート・パックの提供事業を通じて、各地域の活動をサポートしています。また、各国の推進団体と連携し、世界に向けて日本の取り組みを紹介しています。

現在、当法人では、子どもの本の関係者や小児科医師、発達心理学、保育、図書館、地域づくりなど様々な分野の専門家が理事として参画するとともに、常勤職員が事業の企画、遂行を担っています。

各種事業の実施や組織の運営は、ブックスタート・パックなどの販売収益と、活動に賛同する企業などからの会費によって支えられています。



<組織の沿革>

- 2000年2月 子ども読書年推進会議の中にブックスタート室が設置される
- 2001年4月 ブックスタート支援センター発足
- 2002年1月 東京都からNPO法人として認証を受ける
- 2004年2月 NPOブックスタート(特定非営利活動法人ブックスタート)へ名称変更

事業内容

▶ 情報提供

- 問い合わせ、相談受付
ブックスタートに関するあらゆるご質問やご相談にお答えします。
活動の全国的な状況、各地域の事例や工夫なども紹介しています。
- 自治体向け資料の発行
- ニュースレター(季刊)の発行

▶ 研修

- 各地域からの依頼による研修会、講演会などへの職員派遣
- 都道府県ごとの研修会など、主催イベントの開催

▶ ブックスタート・パックの提供

- ブックスタート・パックおよび関連アイテムの制作、提供

▶ 広報活動／研究・調査

- 研究者や学生、一般の方、マスコミ媒体などへの情報提供、取材対応
- 各地のブックスタート実施状況の把握や、関連する情報の収集
- 刊行物の制作、発行



赤ちゃんの絵本をひらいたら
ブックスタートはじまりの10年
(四六判/244ページ/岩波書店刊)

3 ブックスタートで実現できること

ブックスタートは、自治体の各機関や市民ボランティアなどが連携して実施されています。様々な立場の人たちが関わる中で、母子保健、子育て支援、本と親しむ環境づくり、市民協働、まちづくりなど、それぞれの視点から活動の可能性が見出されています。

視点① 母子保健

▶ 親子の愛着形成の手段として

- 「まだ言葉を話せない赤ちゃんに、どう話しかけたらいいかわからない」という保護者にとって、絵本は、いつでもどこでもほんの少しの時間でも、赤ちゃんに向き合うツールになります。また赤ちゃんにとって、絵本は“対話”のツール。読んでくれて、自分の気持ちを受け止めてくれる相手があってこそ成立するものです。そうした対話の積み重ねは、やがて大人になって社会で生きていく上での、大きな糧になるのではないかと感じています。(子育て支援課／大分県日出町)
- 初めての子どもの面倒を見てよかった夫も、絵本を介して、自然に遊んでくれるようになりました。(保護者／A市)



大分県日出町

▶ 健診の受診率と満足度の向上

- 8か月児健診で「読みきかせがありますよ」と保護者に案内すると、嬉しそうに会場に行かれます。その様子から、以前に体験した4か月児健診でのブックスタートが、よい思い出として記憶されているのだと感じます。初めての集団健診での楽しい思い出は、乳幼児健診全体のイメージをよくし、受診率向上にもつながっていると思います。(健康福祉課／栃木県野木町)
- 健診でのブックスタートの時、対応してくださったスタッフの方々の笑顔がとても印象的でした。まだまだ子育てに不慣れで不安でしたが、なんだかホッとしました。(保護者／B市)



栃木県野木町

視点② 子育て支援

▶ 状況が見えにくい親子とも出会える場に

- 以前ブックスタートを実施していたポリオの集団予防接種では(現在は個別受診に変更)、ほぼすべての対象者が受診するため、様々な親子に出会いました。中には、産後間もなく体調が万全でないなど、心身ともに辛い状況でやってきた保護者が、ブックスタートで育児の悩みを吐露することもありました。また、外国の方や、障がいのある方に対応することもありました。それらの経験を通じて、改めて様々な状況の親子がいることがわかり、支援を必要としている人にこそ、地域で子育てを応援していることを伝える必要性を感じています。(図書館／福井県福井市)



福井県福井市

▶ 赤ちゃんの成長を、保護者と共に喜び見守る存在として

- 他の人が自分の子を気にかけてくれることの心地よさや安心感、人と人のつながりを、すべての親子に感じてほしいのです。健診は疲れるかもしれないけれど、色々な人に声をかけられ、かわいいてふれられて……。それを「嬉しかった」と感じて帰ってもらいたいです。健診やブックスタートの場を逃すと、なかなかそうした機会はありません。「見守っているから一緒に育てていこうよ」という思いを、すべての親子に届けていきたいです。(ボランティア／沖縄県那覇市)



沖縄県那覇市

▶ 子育てをめぐる問題の予防策として

- 子どもをめぐる様々な社会問題への予防策を模索していた子育て支援課が中心となり、ブックスタートを開始しました。絵本を通じて親に届けたいのは「子育ては親だけでなく、社会も手伝うよ」というウェルカムメッセージです。児童虐待に陥る親に共通している状況に“子育ての孤立”があるといわれていますが、ブックスタートは親の子育てを社会的に孤立させないために、有効に機能するものだと思います。(子育て支援課／静岡県沼津市)



静岡県沼津市

視点③ 読書支援

▶ 子どもが本に親しむきっかけに

- ブックスタートを始める前は、「0歳の赤ちゃんに絵本を読むことが、本当に意味のあることなのだろうか」と思っていました。でも実際にやってみると、3～4か月児でも絵本に興味を持ち、何よりも我が子の様子を見て保護者が喜んでいました。そこで「まずは保護者に絵本を開くひとときの楽しさを知ってもらうことで初めて、子どもと絵本を結びつけることができるんだ」とわかったんです。(図書館／東京都北区)



東京都北区

▶ すべての親子に読書の喜びを届けられる貴重な機会

- 各家庭に読書普及を図るのが図書館の使命ですが、市の人口に対する図書館の利用登録率は、3割に満たないのが現状です。しかしブックスタートでは、ほぼすべての親子が絵本をもらい、家庭での読みきかせについて話を聞いているのです。これは図書館にとって非常に大きなことであり、市としても喜ばしいことなのではと思います。(図書館／静岡県三島市)



静岡県三島市

視点④ まちづくり

▶ 子育てをあたたく見守る人を地域に増やす

- 担当になる前は、ボランティアの養成は、事業に協力してくれる人を増やすためというイメージを持っていました。しかし担当してみて、実は、子育てをあたたく見守る人を増やしていくことなのだわかりました。そうした人たちが地域の中に一人でも多くいてくれることは、とても大きな意味があると感じています。(健康支援課／千葉県千葉市)



千葉県千葉市

▶ 市民がまちに愛着を感じられるきっかけに

- 最初は赤ちゃんに絵本を手渡すだけのボランティアだと思ってやり始めたのですが、実際には赤ちゃんの笑顔が広がるまちづくりにつながっていることを教えてもらいました。「子どもたちが幸せに育ってほしい」という私たちの思いが、つながり合いながら、これからもこのまちがよくなっていくといいなと思います。(ボランティア／鳥取県境港市)



鳥取県境港市

▶ 自治体の施政方針を象徴する事業として

- 「日本一、子育てに優しい都市を目指す」という目標を掲げていますが、ブックスタートは市民と行政が協働し、その思いを親子に直接伝えていく象徴的な事業になっています。(市長／新潟県新潟市)
- 私が住んでいる市でもブックスタートをやっているとわかって、子どもたちのことを考えてくれているんだという気がして、嬉しかったです。(保護者／C市)



新潟県新潟市

子どもの権利を保障するケアリング・コミュニティへ

教育心理学
東京大学大学院教育学研究科 教授
秋田 喜代美



イギリスでブックスタートを始めるきっかけは、ブックスタートの発案者であるウェンディ・クーリングさんが、小学生になっても本の扱いを知らない一人の男の子と巡り合ったからというエピソードを、私は日本のブックスタートを立ち上げる 2000 年にイギリスを訪問した時にうかがいました。そのことが今でも脳裏に刻まれています。

そこには子どもの権利保障の哲学がありました。イギリスのブックスタートは、確かなスタート (Sure Start) を学校に入る前にできるようにという、家庭教育プログラムの一環として始まった活動です。多様な民族や人種の子どもも、障がいや発達の遅れの有無、家庭の経済的格差によらず、すべての赤ちゃんに絵本の経験を保障するという理念を聞き、「この活動だ」と私は確信しました。

ブックスタートは、どのご家庭にも格差なく、色々なハンディがあるお子さんも取りこぼすことなく、そして赤ちゃんの時だけでなく、生涯にわたり絵本を見て語り合う楽しさ・共有の基盤を創るという、段差のない継続性の理念が大事だと思います。だからこそブックスタートは、「公共の事業」として、

子どもにとっての教育や福祉、保護者にとっての子育て支援、そして、地域にとっての絆づくりといった重要な意味を持っています。日本でも様々な障がいのあるお子さん用のパックの充実や、健診に参加できないご家庭にもきめ細やかに届く工夫が、これからさらに大事だと思っています。

日本は「子どもの権利条約」を採択しています。「生きる権利、守られる権利、育つ権利、参加する権利」の4つが子どもの権利です。絵本は子どもたちにとって社会的、文化的な存在として生きるための「心のミルク」であり、社会の文化的活動に参加していくための基盤となるコミュニケーションの絆を創るものです。乳児期で終わりではなく、ブックスタート後も、絵本経験への連続性を保障するプログラムが、各自治体の創意工夫で生まれています。親も子も、地域で育つコミュニティづくりとなってもらいたいと願っています。嬉しいのは、パパやおじいちゃんの絵本の活動への参加が増えていること。絵本コミュニティに子どもが参加する権利を保障する地域の環として、ブックスタートが根付いていてもらいたいと思います。

絵本に効果は期待せず、その楽しさを味わって

発達心理学
恵泉女学園大学 学長
大日向 雅美



「今どきのお母さんは……」というセリフの後には、肯定的な言葉が続かないことが多いかもしれません。しかし、私がお会いするお母さんたちは皆、懸命に子育てをしています。一方でそれが、保護者自身の苦しさにつながっているのではとも感じています。国を挙げて子育て支援の重要性が叫ばれるようになったことを歓迎しつつも、保護者は世の中の子育てへの期待の高まりも同時に感じ、「立派に育児ができて当たり前」「子育て支援を上手に使うって、よりよく育てなくてははいけない」という気持ちを強くしているようにも思うのです。

今の時代は、技術革新が進み、生活全般が便利になりました。子育てについても、例えばおむつが布から紙になったことで、どれだけのお母さんが助かったことでしょう。では、家事の負担が減ったことにより生まれた時間は、どのように使われているか。ここでもやはりお母さんたちは、一生懸命過ぎると思うほど、赤ちゃんがよりよく育つことに力を注いでいます。中には、早期教育や脳の発達にいいものを追い求めたり、絵本を読むことに対しても「感性を育てなければ」と懸命になってしまう人もいます。

私は今、子どもと関わることについて、世の中に成果主義のような考え方が広がり過ぎていることを危惧しています。絵本についても同様で、赤ちゃんへの効果を期待して読みかせをするのではなく、赤ちゃんの柔らかな肌のぬくもりを感じながら絵本を開き、「楽しいな」「この子とこうして過ごすのは心地よいな」と感じることに、それが何より大事なのではないかと思います。そうしたばっかりと過ごせる時間が今、不思議なことに貴重になっています。

ただ、生活の中にそうした豊かな時間を持ちたくても、何かのツールがないと案外できないものです。ですから、ブックスタートで絵本を手渡すことは、ひとつのきっかけになるでしょう。そして、活動に関わるスタッフの皆さんには、読みかせをする際、ぜひ心から絵本を楽しんでほしいと思います。「絵本は子どもの発達にいいから」「ブックスタートはよい親子関係の構築に貢献できるから」といった思いで勧めるのではなく、絵本を心から好きになること。そうすれば、たとえ読み方がうまくなくても、自分が楽しく読めます。読み手が楽しそうにしていれば、赤ちゃんは自然に絵本の世界に吸い寄せられていくことでしょう。

子どもが社会と関わりながら育つということ

子どもは、乳幼児期の成育環境からたくさんの影響を受けています。成育環境とは、まわりにある物であり、人です。

絵本は子どもが一人で触れて遊んだりする物であると同時に、養育者との関わり合いが生まれる媒介になることがはっきりしています。色々と実証的な追跡調査の結果も出ていますが、本を媒介にした親子の関係は、子どもの様々な発達に良い影響を及ぼすということもわかってきています。そうした特徴を持つ絵本というものが、日本の津々浦々の子どもたちに届けられるというブックスタートを知った時、私はすぐに「これはいいな」と思いました。

今、私たち小児科医が子どもたちの育ちにおいて心配するのは、地域コミュニティがないということです。子育ての方法は、時代とともに変化します。しかし、どの時代においても、子どもたちが社会の中で人と関わりながら成長し、大人になっていくことに変わりはありません。人間という「社会性」を持つ動物にとって、「子育てを支援していく」ことは、親にとっても重要ですが、様々な人

小児科医
お茶の水女子大学 名誉教授
榎原 洋一



が子どもと関わりを持つという観点からみても、極めて大きなことであると思います。

地域の方が子どもたちに絵本の読みきかせをなさる時には、読書につなげたいとか、言葉を獲得させたいといった期待をするかもしれません。でもこうした場合は、子どもにとって、親以外の大人と顔を合わせる機会でもあります。子どもは、お話を耳を傾けながら「この人はどう思っているのかな？」と大人の顔（表情）を見ています。人によって、様々な絵本の読み方や話し方があることを経験することもできます。絵本の読みきかせに限りませんが、子どもにとって、様々な人と関わる場がつくられていくということは、非常に意味があるのです。

「みんなで子どもを支えていく」。そのこと自体が、子どもに様々な副次的効果をもたらします。ぜひこれからも、多くの人に子育てに関わっていただきたいです。そして、「社会全体で子育てをするんだ」というメッセージを、地域の皆さんからもどんどん発信していただきたいと思います。

赤ちゃんの幸せは成熟社会のシンボル

ブックスタートの会場へおじゃますることがあります。赤ちゃん和父母（保護者）と絵本をつなごうとする人びとの最前線です。自治体によっては中心になる「つなぎ人」が、図書館関係者、福祉関係者、文庫経験者など様々であり、それによって雰囲気少しずつ異なっているようにも見えますが、いずれも「子育て応援団」の色彩が濃いものになっています。私が見学させていただいた会場では、祖父母の世代に近いボランティアさんが、若い父母と赤ちゃんにゆったりと語りかけておられました。様々な子育て支援の行事と場所のマップ（小児科医、図書館・自治体の赤ちゃん向け行事内容、遊び場までも含む）など、たくさんの有益な情報が満載された資料も周到に準備されていました。

初めて会った者どうしでありながら、手渡す人と受け取る人の掛け合わせの分だけ、個別的で親密な何かが生まれます。そこでは若い世代のみが恩恵を受けるのではなく、支援する立場の人びとも、若い世代の子育ての困難さと新しい赤ちゃんの実態を肌で感じることができます。双方にとっての「赤ちゃん発見」の場なのです。私は以前、日本学術会議の連携会員として、「子どもに優

乳幼児発達研究
鳴門教育大学 名誉教授
佐々木 宏子



しい都市づくり」の議論に参加していました。その中で発見したことは、ブックスタートは「赤ちゃんに優しいまちづくり」をする上で、とても重要な役割を果たせるということでした。

赤ちゃんが健やかに育つために医療や福祉が充実することも大切ですが、それ以上に、赤ちゃんの誕生を社会全体で歓迎し、すべての世代が新しい命について語り合うことが習慣になること、その幸せを共有することが当たり前になるというシステムを、地域の中に創り上げることが必要です。赤ちゃんの誕生と成長をすべての人びとが楽しみながら共有できる「赤ちゃんに優しい社会」こそが、新しい成熟社会の指標となるでしょう。

絵本はともすれば読書への入り口から論じられることが多いのですが、もっと多様な可能性を持つものだと思います。言葉を獲得する前の赤ちゃんにとっては、わらべうたや手遊び、ボール遊びにも似たコミュニケーションツールであり、父母の養育性・養護性を引き出す魅力的な文化財なのです。



第2章

事業を計画する



ブックスタートを行うためには、様々な準備が必要です。予算の確保、他機関との連携、ボランティア募集や研修など、事務局担当課が考えるべきことは多岐にわたります。この下準備が事業を軌道に乗せるためのカギといっても過言ではありません。

この章では、事業の基盤づくりにスポットを当ててご紹介します。

1 事業運営に必要な項目を洗い出す

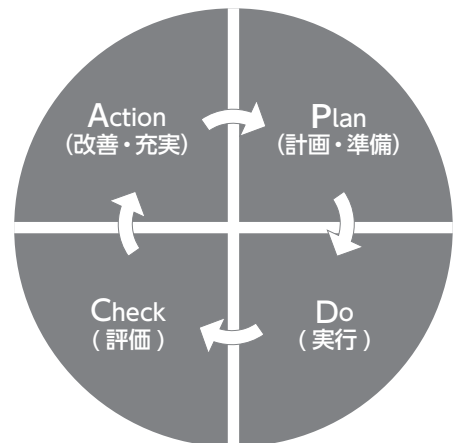
事業を行うにあたり、具体的にどのような業務があるのかを検討します。そして、ブックスタートを計画・実行した後、改善点はないかなど活動を振り返り（評価）、その後の業務に活かす（改善・充実）ことを、運営のサイクルに沿って繰り返し行います。

運営のサイクル ～ PDCA サイクルに沿って

事業をよりよいカタチで実施し、継続していくためには、十分な準備や実施後の検証、改善が必要です。各地域での実施手順を参考に、各段階で行う業務の例を紹介します。

Plan（計画・準備）

- 情報収集
 - ・他自治体へのヒアリング、見学
 - ・NPO ブックスタートへの問い合わせ、資料請求
- 各種計画への位置づけ
 - ・事務局にて事業目的を確認
- 予算の確保
- 実施方法の検討
 - ・実施要綱の策定
➡ NPO ブックスタートでは書式案を用意しています。
 - ・実施機会の設定
 - ・会場設営、作業手順、パックの手渡し方の検討
 - ・ブックスタート・パックの内容検討（絵本、地域で作成する資料、その他アイテム）
 - ・参加しなかった対象者へのアプローチ方法を検討
 - ・会場で使用する物品の制作（会場案内板、スタッフ用名札など）
- 運営体制づくり
 - ・関係機関への協力要請
 - ・関係機関を集めた検討会議を開催、事業目的、各課の役割を確認
 - ・ボランティアの募集
- 関係者の認識の共有、知識の向上
 - ・研修会の開催
 - ・ブックスタート・パックの手渡し方の練習
- 対象者・市民への周知
 - ・出生届け受付時に案内を配付
 - ・健診の個別通知に案内を同封
 - ・公共施設や親子が集まる場でのポスター掲示
 - ・マスメディア、広報紙、Web サイトでの事業紹介
- ブックスタート・パック*の手配
 - ・絵本などの注文
 - ・納品された絵本などの検品
 - ・絵本や地域の資料など、ブックスタート・パックを1組ずつにセット



＜運営サイクルのイメージ＞

事業実施要綱 書式案

ブックスタートの目的、趣旨、実施方法、評価方法、実施機会の設定、実施体制、関係者の認識の共有、知識の向上、対象者・市民への周知、ブックスタート・パックの手配

1. 目的
この事業は、ブックスタート事業の推進を図ることを目的とし、地域の子どもたちに、絵本や地域の資料など、ブックスタート・パックを届けることにより、子育て支援の一環として実施する。

2. 実施方法
地域の子どもたちに、絵本や地域の資料など、ブックスタート・パックを届けることにより、子育て支援の一環として実施する。

3. 実施体制
地域の子どもたちに、絵本や地域の資料など、ブックスタート・パックを届けることにより、子育て支援の一環として実施する。

4. 関係者の認識の共有、知識の向上
地域の子どもたちに、絵本や地域の資料など、ブックスタート・パックを届けることにより、子育て支援の一環として実施する。

5. 対象者・市民への周知
地域の子どもたちに、絵本や地域の資料など、ブックスタート・パックを届けることにより、子育て支援の一環として実施する。

6. ブックスタート・パックの手配
地域の子どもたちに、絵本や地域の資料など、ブックスタート・パックを届けることにより、子育て支援の一環として実施する。

7. その他
地域の子どもたちに、絵本や地域の資料など、ブックスタート・パックを届けることにより、子育て支援の一環として実施する。

8. 評価
地域の子どもたちに、絵本や地域の資料など、ブックスタート・パックを届けることにより、子育て支援の一環として実施する。

実施要綱 書式案

※ NPOブックスタートから購入できません。詳しくは「ブックスタート購入ガイド」をご確認ください。

Do (実行)

- 会場設営
- 事前ミーティング
 - ・対象者数の確認
 - ・外国語を母語とする人や障がいのある人など、何らかの配慮が必要な対象者の確認
 - ・注意事項などの確認
 - ・保護者へ案内する地域の行事予定などの確認
- 赤ちゃんと保護者へブックスタートを実施
 - ・活動の趣旨を説明
 - ・絵本の読みきかせ
 - ・地域の子育て支援情報を提供
 - ・ブックスタート・パックを手渡し
- 事後ミーティング
 - ・当日の実施状況を共有、記録
- ブックスタート・パックの配付数、在庫数の確認
- 参加しなかった対象者へ、別の機会にブックスタート・パックを手渡し

Check (評価)

- アンケート調査の実施・分析
 - ➡ NPOブックスタートでは書式案および集計フォーム(Excel)を用意しています。
- 関係者を集めた会議を開催し、課題や改善点を検討
- 年次報告書の作成
 - ➡ NPOブックスタートでは書式案を用意しています。

Action (改善・充実)

- 実施会場・方法の充実
- 関係者向けスキルアップ研修会の開催
- フォローアップ活動の検討・実施
- 広報の充実
- 参加しなかった対象者へ、確実にブックスタート・パックを手渡すためのアプローチ方法を拡充

対象者向けアンケート調査 書式案

年次報告書 書式案

事例

まず着手したのは行政計画への明文化

事業を開始する上でまず着手したのが、「子どもの読書活動推進計画」および「図書館サービス計画」にブックスタートを明文化することでした。なぜなら、計画を策定する過程では、有識者や市民の意見も反映されるため、地域に求められている証明にもなるからです。また、その計画に則って事業を実施することは、目標を実現するために重要な道筋でもあるため、事業の長期的な継続にもつながると考えています。

(図書館／神奈川県座間市)

2 予算を確保する

事業を行うにあたり、まず検討しなければならないのが予算の確保。どれくらいの費用がかかるのか、そして、どうすれば必要とする予算を獲得できるのかを考えます。

予算要求額を見積もる

ブックスタートを実施するためには、対象者に手渡すブックスタート・パックの購入費のほか、様々な費用が必要です。以下の項目などから、各地域の状況に合わせて必要な費用を計上します。

事業にかかる費用項目の例

ブックスタート・パック費用	購入するアイテム	絵本／アドバイス ブックレット／布製バッグ (赤ちゃん1人あたりのパック単価×出生数)
	作成するアイテム	地域の資料の作成費(絵本リスト／図書館案内／子育て支援情報など)
実施に役立つアイテム費用	購入するアイテム	エプロン／スタンプ (スタッフ用として、アドバイスブックレットや布製バッグを購入することもできます)
	作成するアイテム	実施会場で使用する備品の制作費 (会場案内板／スタッフ用名札など)
研修費用	NPOブックスタートによる研修	交通費(飯田橋駅／羽田空港からの職員1人分往復交通費)／宿泊費(宿泊を伴う場合のみ)
	学習会開催	講師の交通費や謝礼
	各種研修会などへの参加	交通費／参加費
	実施自治体の見学	交通費
広報費用	対象者への案内・広報	ポスター・チラシ制作費／パックを受け取っていない対象者への案内作成費・郵送費
スタッフ関連費用	ボランティア関連	ボランティア保険加入費／交通費
フォローアップ関連費用	赤ちゃん絵本コーナーの充実	図書購入費
	他月齢健診で配付する「地域の資料」	絵本リスト／子育てに役立つ資料作成費
	「赤ちゃん」や「絵本」をテーマにした講演会開催	講師の交通費や謝礼

※ ブックスタート・パックおよび実施に役立つアイテムの詳細はP54～63をご確認ください。



北海道恵庭市

※ NPO ブックスタートによる研修の詳細はP26をご確認ください。



福井県勝山市



青森県青森市

予算獲得のための工夫

ブックスタートの予算を獲得するためには、事業の必要性や効果などの「ブックスタートを実施する目的」と、予算額の妥当性の根拠を明確にした上で、財政担当課と十分な協議を行う必要があります。また、事務局担当課からの予算要求以外にも、財源を確保するための工夫をしている地域もあります。

予算要求書の提出前にできること

- 各種計画に位置付ける
例：母子保健／子どもの読書活動推進／教育振興／子ども・子育て支援事業／男女共同参画／市民協働推進／定住促進／過疎地域自立促進／まち・ひと・しごと創生総合戦略
- 近隣自治体の実施状況を調査
例：実施自治体数／ブックスタート・パックの内容／成功事例
- 効果や実績を示す資料やデータの収集
➔ NPO ブックスタートでは関連する書籍を発行しています。
- 実施・継続を求める声を収集
例：保護者より／ボランティアより／パブリックコメントより



「ブックスタートがもたらすもの」に関する研究レポート
(A5/206ページ)

財源確保のための工夫

- 事務局担当課以外の、関係各課で管理する予算を利用
- ふるさと納税を利用
- 社会福祉協議会の財源を利用
- 都道府県の交付金・補助金を利用



予算獲得における訴求ポイント

新規事業の予算獲得にはタイミングがあります。ブックスタートは、自治体の予算規模から考えると、それほど大きな金額ではありません。自治体は、財源や職員数が限られた中でも、新しいものをどう生み出すか模索しています。当町では、そんなタイミングとうまく合って予算が付いたのだと思います。

また、図書館だけでなく、福祉や保健部署、市民ボランティアが手を携えて実施することは、様々な観点からこの事業が必要とされていることを意味し、予算申請において好印象を与えます。さらに、絵本を読むだけでなくプレゼントすることは、税金の使い道を見えるかたちにしたサービスともいえ、市民に理解が得られやすいということもポイントではないでしょうか。(図書館／群馬県邑楽町)

<図書館協議会※の活用について>

新規事業の予算を獲得するためには、図書館協議会から答申を出してもらうという方法も有効です。協議会からの答申は、教育長だけでなく首長も目を通すため、上層部への理解につながります。答申作成にあたって出された委員からの少数意見も併せて公表し、様々な観点から議論されていることを訴えることで、事業の検討に本腰を入れてもらうきっかけにもなるかもしれません。

※ 図書館法に基づき、公立図書館の運営について館長の諮問を受けたり、館長に意見を述べたりできる機関。委員は教育関係者や学識経験者、市民などが務めている。



財源は赤い羽根共同募金の配分金

若い世代や未来を担う子どもたちに目を向けることで、安心して子育てができ、子どもたちが健やかに育つまち、ひいては、誰もが暮らしやすいまちをつくりたいと考え、社会福祉協議会が中心となって事業に取り組むことにしました。

財源は、赤い羽根共同募金の配分金です。パックを手渡す時は、財源についても紹介し、この事業が地域のあたたかな厚意に支えられていることも伝えています。また、市内全戸に配布している社協日よりでは、共同募金が地域の赤ちゃんのために使われていることを報告しています。(社会福祉協議会／宮城県角田市)



社協日よりで
ブックスタートを紹介
(宮城県角田市)



絵本の価格が上がったのに予算は増額しないという査定が

以前、たまたま前年度よりも高い価格の絵本を選んだ年がありました。その時の財政課の査定は、予算は増額しないというものでした。でもその絵本は、子どもたちにとってどれがよいかと、市民ボランティアと時間をかけて話し合っ決めて本。もしも財政課の査定をそのまま受け入れて、絵本を選び直すことにしてしまったら、「協働」とは言えなくなってしまいます。そうしたことを理解が得られるまで財政課に説明して、最終的に予算が通りました。(健康推進課／鳥取県境港市)



事業の必要性を訴え、再び予算を獲得

財政事情が厳しく、一時は予算が全額カットされました。そこで、在庫で事業を継続し、一方で活動の必要性を地域に広く伝えることに。市の広報紙に、ブックスタート会場の様子や対象者の声、事業の必要性を訴えるボランティアの寄稿文を掲載しました。その広報紙をもとに、ボランティアが周囲に理解を求めたり、関係機関からも継続を願う声が挙がり、皆が思いをひとつにして活動の意義を訴えました。こうした働きかけが実を結び、金額は縮小されたものの、再び予算を確保することができました。(こども課／長崎県島原市)



広報紙で事業の意義を説明
(長崎県島原市)



他課管轄の補助金やふるさと納税を活用

開始当初は事務局である図書館の財源で事業を実施していましたが、財政難の影響を受け、予算の全額カットが通達されました。この窮地を各方面の関係者に訴えたところ、保育子育て支援課から府の補助金の活用を提案され、事業を継続することができました。本来ならば、市の当初予算に組み込まれ、安定した財源を確保したいところですが、その後、ふるさと納税基金の活用事業に採用されたことは、市の事業としてブックスタートが認められた証だとも感じています。(図書館／大阪府泉南市)

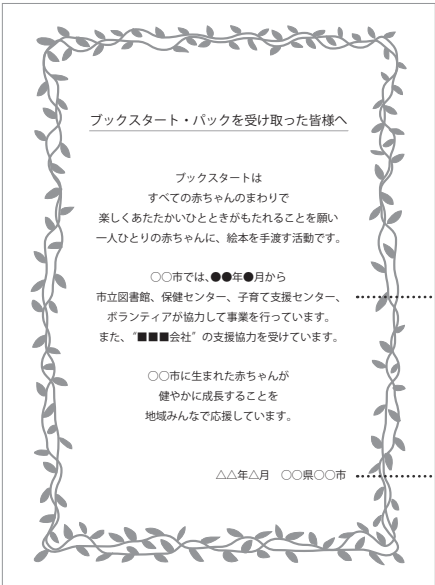
寄付を受けた際の対応

ブックスタートは、特定の個人や団体・企業の宣伝、営利、政治活動が目的ではありません。例えば、パックの中に企業の広告やリーフレットを入れたり、バッグに名前を印刷するなどして、特定の個人・団体・企業の名前を前面に出すと、ブックスタートが、それらの宣伝やイメージの向上のために行われていると捉える対象者や市民がいるかもしれません。それは、地域からの活動への理解や支持を失うことにもつながってしまいます。

財政的支援を受けたことを伝える場合、その部分のみを強調するのではなく、事業に関わるすべての人の立場を正確に紹介するためのチラシをパックの中に入れる方法があります。ブックスタートは、図書館・保健センター・子育て支援課・ボランティアなど様々な分野や立場の人の協力によって行われる“みんな”の活動。だからこそ、事業への様々な人の関わりとともに、赤ちゃんの健やかな成長をブックスタートを通じてみんなで応援していることを伝えます。

また、あえて支援者・企業名などを出さない地域もあります。

<メッセージ例>



ブックスタート・パックを受け取った皆様へ

ブックスタートは
すべての赤ちゃんのまわりで
楽しくあたたかいひとときがもたれることを願い
一人ひとりの赤ちゃんに、絵本を手渡す活動です。

〇〇市では、●●年●月から
市立図書館、保健センター、子育て支援センター、
ボランティアが協力して事業を行っています。
また、「■■■会社」の支援協力を受けています。

〇〇市に生まれた赤ちゃんが
健やかに成長することを
地域みんなで応援しています。

△△年△月 〇〇県〇〇市

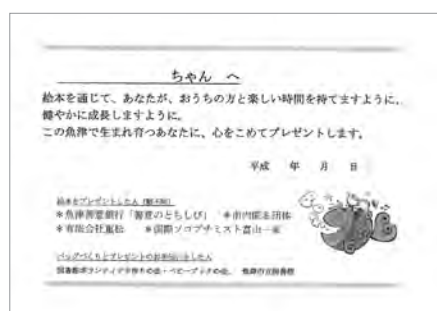
関わっているすべての
人の立場を正確に紹介

差し出し人は自治体



メッセージカードで活動を支える団体を紹介

お渡しする絵本は、趣旨に賛同する団体や企業、個人の方の寄付です。絵本の配付と読みきかせ、バッグの制作は、ボランティアが行っています。そのことをメッセージカードで紹介。赤ちゃんの名前を聞いてカードに記入し、パックと共に手渡します。
(図書館／富山県魚津市)



3 各機関と連携する

予算の確保と同じくらい重要なことは、各機関と連携すること。地域の赤ちゃんへの思いを共有した多くの人たちと、ブックスタートを幅広い視点から捉えることで、事業に広がりが生まれます。

なぜ連携が必要なのか

ブックスタートを実施している多くの地域では、事務局担当課が中心となり、図書館や保健センター、子育て支援課、市民ボランティアなど、様々な立場の人が連携しながら事業を行っています。では、この活動において、なぜ「連携」が必要なのでしょう。

▶ すべての対象者にブックスタート・パックを手渡すため

- すべての親子が自然なかたちで集まれる集団健診を活用する
- 参加しなかった対象者へ対応する
- 対象者にブックスタートの広報を行うための場所や機会を得る

▶ 親子に丁寧に対応するため

- 一組ずつに絵本を読み、活動の趣旨を直接伝える
- 地域の子育て支援の情報を把握し、親子に伝える
- 絵本に関する情報を得て、提供する
- 外国語を母語とする人や障がいのある人など、何らかの配慮が必要な対象者に対応する

▶ フォローアップ活動の実施・充実のため

- 絵本と赤ちゃんをテーマにしたイベントなどを様々な場所で開催する

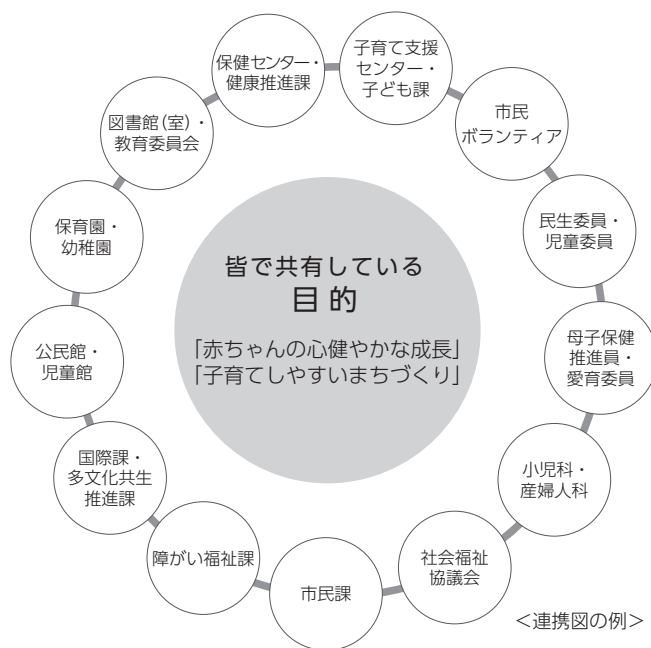


ブックスタートでの連携を活かし、他事業を展開

保健師が「子ども読書活動推進計画」の策定委員に加わったり、保健センターに置く絵本の選書に図書館が協力をしたりと、ブックスタートをきっかけに、図書館と健康推進課が互いに協力をする機会が増えました。さらに、人権施策推進課、子育て支援課、健康推進課、図書館が協力し合い、お父さんの育児参加を促す講座を開催。連携の輪はさらに広がり、他事業の充実にもつながっています。(図書館／滋賀県長浜市)

活動の目的と連携機関の役割を明確に

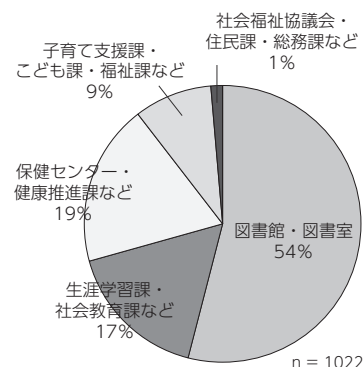
「なぜ、この地域でブックスタートを行うのか」「ブックスタートを行うことによって何を実現したいのか」について、十分に話し合う機会を持ち、関係者全員が同じ目的に向かっていくことを確認し合うことが大切です。目的を共有することで、それぞれの立場から何ができるのか、具体的な検討がしやすくなります。



事務局担当課の役割

事業運営のために集まった連携機関の中で、中心的な役割を果たすのが事務局担当課です。事務局担当課は、各機関に事業運営への協力を呼びかけたり、学習会や打ち合わせ会議を企画したり、時には意見の調整も行います。さらに、ブックスタート・パックの注文などの実務作業を行い、NPO ブックスタートとの連絡窓口にもなります。どの機関が事務局を担当するのは地域によって異なりますが、主体的に事業に取り組める機関であることが不可欠です。

<事務局を担う機関>



実施状況確認シートをもとに集計
(2018年3月末現在)

市民との協働

多くの地域では、市民ボランティアが事業に協力しています。それは、一組一組の親子に丁寧にパックを手渡すことだけが理由ではありません。「ボランティアは頭脳であり、事業に魂を込める存在だ」とは、ある自治体の市長の言葉です。納税者でもある市民が活動を理解し、支えていることは、継続的に予算を確保し、地域に根付いたかたちで事業を行っていく上でも大きな力になります。



ボランティアは事業の牽引役

事業を進める際、どうしても縦割りにならざるを得ず、各課の意見が合わないこともあります。でもそこで、熱心に関わってくださる市民の存在があると、行政の中で意見が合うとか合わないとかではなく、そこを越えて協力してやっていこうという気持ちになります。ボランティアが事業の牽引役となってくれているからこそだと思います。(健康推進課／鳥取県境港市)

ボランティアを募集する

広報紙などでブックスタートのためのボランティアを新たに募集する方法、既存の団体に協力を呼びかける方法などがあります。子育て支援活動に携わりたい方、赤ちゃんや絵本に関する活動に関心のある方など、様々な方面から協力者を募ることができます。

募集方法の例

- 読書、子育て支援、母子保健などの分野で活動している団体に協力を呼びかける
例：図書館ボランティア・子育て支援ボランティア・母子保健推進員・愛育委員・民生委員・児童委員・保育士 OB/OG 会
- 上記の団体に所属している人に、個別に協力を呼びかける
- 自治体広報紙や Web サイト、ポスター掲示などを通じて広く公募する
- 社会福祉協議会の登録ボランティアに協力を呼びかける
- 関係者の知り合いに協力を呼びかける
- 公共施設の利用者で、事業に協力してくれそうな人に直接声をかける

事例

募集方法の工夫

できるだけ多くの人へ広く呼びかける

- ・市の広報紙に募集記事を掲載。ブックスタート会場の写真とボランティアの感想を併せて紹介したところ、予想以上の応募がありました。（子ども家庭支援センター／東京都立川市）
- ・市の Facebook やメーリングサービスで募集。また、シニア世代の利用者も多い公民館にポスターを掲示したところ、例年よりも多くの応募がありました。（図書館／群馬県桐生市）

活動時間に都合がつきそうな人へ呼びかける

- ・ブックスタートを実施する曜日・時間帯に図書館に来る人へ声をかけています。（図書館／福岡県筑後市）

経験や専門性を活かせる人へ呼びかける

- ・連携している子育て支援室から定年退職した保育士全員に、ボランティアへの協力を募る案内を送付。ブックスタート会場では子育てについて相談する保護者もいるため、保育士として経験豊富なボランティアがいるのは心強いです。（図書館／福井県福井市）

子育て世代へ呼びかける

- ・小学校で読みかせをしている保護者や、活動に興味はあるけれど今は子育てで忙しいという方にも声をかけ、ブックスタートの見学や研修会に誘うなどしています。子育て世代の人たちに、今すぐは難しくても、協力したいという気持ちを持ち続けてもらい、できる時が来たらボランティアとして関わってもらおう。この活動を次の世代にもつなげていくことが、この大事な事業を長く継続する上で大切だと考えています。（ボランティア／群馬県高崎市）



広報紙に会場の写真と
ボランティアの声を掲載
（東京都立川市）

4 研修を行う

研修を行い、関係者が同じ知識や情報を共有することは、誰もが安心して活動に参加できるとともに、連携をよりスムーズにします。また、活動が対象者から信頼されたり、事業の質を向上させることにもつながります。

目的に合わせて企画する

研修会を企画する際は、関係者の関心事、身につけてほしい知識や経験、現状の課題などを整理し、「参加者に何を学んでほしいのか」を考えた上で、テーマや講師を決定します。

研修会を開催する目的の例

- ブックスタートの理念や目的を理解・再確認する
- ブックスタートの実施方法、パックの手渡し方を伝える
- 活動にあたってのルールや心構えを確認する
- 赤ちゃん・子育て・絵本など、事業に関連する情報を知る
- 関係者のモチベーションを保つ
- 関係者どうしで情報を共有したり、交流する



研修会のチラシ
(群馬県桐生市)

活動への共通認識を持つ

事業を行う上で基本となるのは、関係者全員が活動に対する共通認識を持つことです。そのため事業の立ち上げ時に、ブックスタートの理念や目的を理解するための研修会を開催します。近隣自治体への視察や健診会場の見学、パックを手渡す練習などを行い、理解を深めることもできます。さらに、定期的に研修会を開催することで、各機関の担当者が代わってもブックスタートへの理解が保たれるようにしている地域もあります。

➔ NPOブックスタートでは、活動紹介DVDの貸し出し、リーフレットの提供を行っています。



DVD「しあわせ広げる、愛情ことば。」
(活動紹介：約18分
インタビュー：約31分)



グループワークで各自の経験を共有

ボランティアの人数が多く、各自がそれぞれの経験を持っていました。そこで、実際の会場での対応のコツをつかむことを目的に、研修会でロールプレイを行いました。

<グループ分け>

4名ずつのグループに分かれる。活動場所が異なる人どうしでグループになるよう配慮。ボランティア役(1名)、対象者役(1名)、見学(2名)を交代で担当。

<進行>

1. 「子どもが絵本に興味を示さない。まだ早いのでは？」など、会場でよく受ける質問を4つ用意し、参加者にそれぞれ割り当て。
2. 対象者役は、赤ちゃん連れの保護者の気持ちでボランティア役から話を聞き、割り当てられた質問をする。
3. 終了後、よかった点、改善点などについて意見交換。
4. 全員が終わった後、質問に対する回答例を配付。

(図書館／新潟県新潟市)



グループワークの様子
(新潟県新潟市)

NPO ブックスタートによる研修概要

NPO ブックスタートでは、当法人の職員が地域を訪問し、活動の理念や目的、実施する際の大切なポイント、各地域の事例など、ブックスタートを行うために必要な情報を紹介する研修事業を行っています。関係者どうしが共に学び、活動への共通認識を持つため、ワークショップの手法も取り入れています。



NPO ブックスタートによる
ワークショップの様子

対象者

- ・ 図書館、保健センター、子育て支援課などの関係機関の職員
- ・ ボランティア、今後活動に関わってみたい方
- ・ 事業には直接携わらないが、子どもに関わる活動をしている方など

目的 関係者全員でブックスタートの理念と目的を共有する

内容

- ・ 赤ちゃん絵本を開く時間の意味
- ・ 絵本を開く「体験」と「絵本」をセットでプレゼントする意義
- ・ 全国各地の事例紹介
- ・ ブックスタート後のフォローアップ
- ・ 関係者どうしによるグループワーク

※ 内容は、地域の状況やご要望に合わせています。
※ 写真やビデオをまじえ、1～2時間で紹介します。

費用

NPO ブックスタート職員（1人分）の往復交通費（飯田橋駅／羽田空港から）
※ 別途謝礼などは不要です。
※ 日帰りが難しい場合は宿泊費のご負担をお願いしています。
※ 東京から遠方の地域については、当法人にて費用の一部を負担します（条件あり）。詳しくはお問い合わせください。

事例

市内全区から関係職員が参加

保健師全員が同じ思いを持つことが大切だとの考えから、NPO ブックスタート職員による研修に全区健康課の保健師も参加。それ以前は、「健診でなぜ読書推進の活動を行うのか？」という疑問を持つ保健師もいました。でも研修を通して、ブックスタートが絵本を介して親子の絆を深め、赤ちゃんの健やかな心を育む活動であることや、保護者にとっても心安らぐ時間となることを知り、事業の目的について理解を深めることができました。（健康支援課／千葉県千葉市）



研修会の様子
（千葉県千葉市）

事例

活動の理念を改めて確認する機会に

NPO ブックスタート職員による研修では、大切な活動の理念を、改めて確認することができました。ボランティアメンバーは、それぞれの個性を活かし、信頼し合いながら活動しています。それは、皆で一緒に研修を受け、活動の目的や同じ知識を共有できているからだと思います。（ボランティア／静岡県御殿場市）

赤ちゃん・子育て・絵本に関する情報を知る

ブックスタートの会場では、赤ちゃん絵本や図書館、地域の子育て支援について保護者から質問を受けることがあります。また、赤ちゃんの発達や子育て環境の現状などを知っておくことは、親子に丁寧に接するための有効なヒントにもなります。こうした研修を事業開始時だけでなく、定期的を開催することで、最新の情報を共有できます。

研修内容と講師になりうる人・機関の例

- 赤ちゃんの発達について 保健師・保育士・小児科医
- わらべうた・手あそびうたについて 保育士・ボランティア
- 絵本や図書館について 図書館員・ボランティア
- 子育て環境や保護者の現状について 子育て支援センター・子ども課・保健師
- 地域の子育て支援事業について 子育て支援センター・子ども課
- ボランティアをする上での心構えについて 社会福祉協議会・ボランティア



保健師から保護者に接する際の注意点などを学ぶ

ボランティア研修会のひとコマとして、健康づくり推進課の保健師による講話を取り入れています。赤ちゃんの発達についての説明の際には、赤ちゃん人形を使って参加者が重みを体感。また、保護者に接する際の注意点として、我が子の成長を気にしている保護者もいるため、赤ちゃんの体格などについては言及しないといったことも学べます。赤ちゃんや保護者への具体的な声かけ例も紹介するため、実践に役立つ講座になっています。(図書館／茨城県牛久市)



子育て支援センターを見学し、親子への案内に活かす

ボランティアから「子育て支援センターの状況を自分が知らないまま、ブックスタートで保護者に案内をしていたことに気づいた。実際の様子を見学したい」という意見が出ました。そこで、センターの運営に支障が出ないよう、数人ずつに分かれて見学に行くことにしました。現場を見たことにより、親子に案内しやすくなっただけでなく、子育て支援の現状を詳しく知る機会になったとボランティアから大変好評でした。(図書館／大阪府泉南市)

関係者のモチベーションを保つ

事業を支えるボランティアどうしが、チームワークを高め、楽しく安心して活動が続けていくためには、お互いに意見を交換したり、交流したりする場を設定することが大切です。また、自分が関わっている活動の社会的意義を再確認する機会を持つことは、この事業に携わるスタッフのモチベーションを保つことにもつながります。

事例

ボランティアから連携機関への問題提起

ブックスタートの実施方法について、ボランティアから「待ち時間に行うのではなく、ゆっくりと時間を持てるようにしたい。保健センターと直接話をさせてほしい」という要望が出ました。そこで、関係者どうしが理解し合うことを目的に、研修会を開催。関係各課にブックスタートについて説明するとともに、ボランティアの生の声を聞いてもらいました。終了後、保健センター長から「これは何とかしなければいけないね」との話があり、関係各課が集まる会議の開催へと発展。その結果、ブックスタートを受けなかった対象者へ、家庭訪問をする際にパックを持参するという体制が整いました。実施方法を大きく変えることはありませんでしたが、こうした機会を持ち、お互いの考えを伝え合ったことで、ボランティアにも納得してもらうことができました。(図書館／福岡県飯塚市)

事例

保護者からの生の声を研修会で紹介

保護者にアンケートを行ったところ、自由記述欄には、事業への好意的な感想がたくさん書き込まれていました。そんな保護者の気持ちをボランティアに直接伝えたいと思い、あえて手書きのまま、コメント部分をコピーして配付しました。アンケートの中には、紙が破れてセロテープで補修してあるものも。赤ちゃんがクシャクシャにした用紙を、きれいに直してコメントを記入してくれたようで、そんな保護者の思いが嬉しくて、皆に紹介しました。(健康支援課／千葉県千葉市)



アンケート用紙の一部を
スクリーンにも投影して紹介

5 スタッフ向け手引きを作成する

ブックスタートの目的を活動の中で具現化し、関係者どうしが協力しながら円滑に事業を実施できるよう、会場での手順や対象者への説明内容などをまとめた「手引き」を作成している地域もあります。

親子への対応をスムーズにするために

ブックスタートには多くのスタッフ関わりますが、各自が持つ経験やスキルは様々です。自治体の事業として活動を実施する以上、対象者への接し方が、スタッフによって異なることのないように配慮する必要があります。また、会場に向く当番の頻度が数か月に一度くらいとなる地域の場合、手順や保護者への説明の仕方をおさらいしたいというニーズがあるかもしれません。手引きを作成することで、スタッフ全員が安心して事業に関わることができます。

手引きに盛り込む項目の例

- ブックスタートの理念、目的
- 実施会場での流れ、作業手順
- 対象者への説明例
- 親子に接する上で気を付けるポイント
- ブックスタート・パックの詳細、説明ポイント

事例

「ことばかけ例」を作成

親子と会話をする際の参考となるよう、「ことばかけ例」を作成しました。ただ、資料に書かれているのは、あくまで例にすぎず、この通りに話さなければならないものではないこと、参考程度にとどめてほしいことをスタッフに伝えています。その時々に出会う親子に合わせて、その人らしい心のこもった言葉かけを大切にしてほしいと考えています。（図書館／大阪府豊中市）

事例

保護者からよくある質問と対応例を掲載

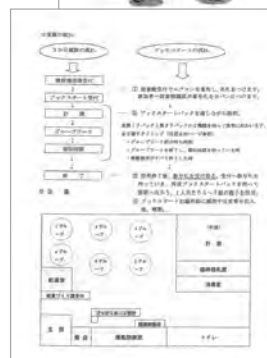
ボランティアとは、活動の理念や親子への対応方法などを常に共有するように意識しています。そこで、活動を通じて蓄積されたノウハウを「ボランティア手順書」にまとめて配付。当日の流れや対象者への説明内容に加えて、保護者からよくある質問と対応例も記載しています。

<質問例>

- ・ もう絵本を読んであげなければいけませんか？
- ・ 絵本をかじったり、破いたりしますがどうしたらよいですか？
- ・ 同じ絵本ばかり見たがります。新しい本を与えた方がよいですか？
- ・ 赤ちゃんと一緒に図書館に行ってもよいのですか？

（図書館／静岡県三島市）

ブックスタート ボランティア手順書



ボランティア手順書
(静岡県三島市)



第3章

実施機会を設定し、
充実させる



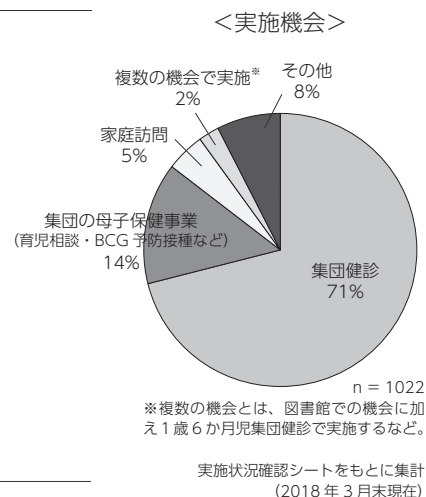
事業の実践では、赤ちゃんと保護者からの視点を重視することが大切です。なぜなら、ブックスタートをどの機会に行うか、どのように親子に接するか、ブックスタート・パックの中には何を入れるか、といったことは、家庭で絵本を開く時間が持たれるかどうかと直結するからです。どのようなやり方がよいのか、地域の現状と併せて検討します。

1 実施機会を設定する

どのような機会ブックスタートを実施するかは、事業の目的を達成することに大きく関わります。各地の状況に合わせながら、親子にとって最善の機会を設定します。

すべての親子がブックスタートに参加しやすい機会を選ぶ

ブックスタートは、ただ絵本を配るような活動ではありません。どのような場で、どのように手渡すかによって、その絵本の価値は大きく変わってきます。ブックスタートの主役は、赤ちゃんと保護者です。まずは、すべての親子がブックスタートに参加しやすい場を設定することが大切です。



集団健診で実施するメリット

多くの地域では、集団健診でブックスタートを行っています。なぜなら親子にとって、また地域の子育て環境の充実に注力する自治体にとって、大きなメリットがあるからです。

▶ 地域に生まれたすべての赤ちゃんと保護者に会える

保健センターでの集団健診は、希望者だけを対象とする機会ではなく、すべての赤ちゃんと保護者が同時に訪れる場です。だからこそ、絵本に関心がなかったり、赤ちゃんに絵本はまだ早いと思っていたり、どんな絵本を選べばいいかわからないという保護者にも、赤ちゃんと絵本を開くひとときを持つきっかけを届けることができます。

▶ 健診の中で自然に、赤ちゃんと保護者の心のケアを行うことができる

ブックスタートでは、スタッフが絵本を介して赤ちゃんに語りかける様子を保護者に見てもらうことができます。赤ちゃんの発達の確認だけでなく、子育てに不安を感じている保護者への心のケアや、赤ちゃんの心身両面の健やかな成長について、指導型ではない自然なアプローチができます。

▶ 健診の場が、保護者どうしの出会いの場になる

ブックスタートが行われている健診会場では、同じ年頃の子どもを持つ保護者どうしが、初対面にも関わらず子育てについて話をする光景がよく見受けられます。ブックスタートが醸し出すあたたかな雰囲気によって、お互いにより話しかけやすくなり、保護者にとっては貴重な出会いの場となっています。

▶ 健診の場が、地域の人との出会いの場になる

健診会場は、保健師、保育士、図書館員、ボランティアなど、地域の中で子育てを応援する様々な立場の人と、保護者との大切な出会いの場にもなります。またブックスタートでは、スタッフが親子の様子に合わせて丁寧に対応します。普段あまり接することのなかった地域の人を身近に感じてもらい、地域全体が子育てを応援していることを、保護者に自然なかたちで伝えることができます。

「健診」と「検診」の違い

母子保健法では、市町村に対し、1歳6か月児および3歳児への健康診査（健診）の実施を義務付け、その他乳幼児に対しても、必要に応じて健診を行うよう定められている。

なお、「検診」は、ある特定の病気にかかっているかどうかを調べるために診察・検査を行うことを言う。（例 がん検診）

乳幼児集団健診の受診率

3～5か月児：99.5%

1歳6か月児：96.2%

（標準的な乳幼児期の健康診査と保健指導に関する手引き〈平成24年発行〉より）

事例

時間がかかる健診にブックスタートを導入する理由

正直なところ、ただでさえ時間がかかる健診に、ブックスタートを導入することには不安がありました。でも、親子の関わり大切さは、保健師が言葉を尽くしても伝えきれず、保護者自身に気づいてもらう必要があります。そのための手立ては色々ありますが、絵本を介したふれあいもそのひとつ。健診は保護者にとって負担が大きい部分もありますが、何かを得て「来てよかった」と感じてもらうためにも、ブックスタートの導入は意味のあることだと感じています。（健康増進課／福島県二本松市）



福島県二本松市

事例

1回あたり100組の親子がやってくる会場で

月平均3回の健診に、1回あたり約100組の親子がやってきます。健診は日曜日に行われるため、家族総出で参加する対象者も多く、会場は混雑します。スタッフは、会場全体の流れをみて親子を誘導。基本的には健診の最後がブックスタートですが、問診や栄養相談の待ち時間が長くなりそうな場合は、スタッフが臨機応変に声をかけ、先にブックスタートを受けられるよう計らいます。

事業の開始当初は、パックを受け取らずに帰ってしまう親子もいましたが、今では会場にいるスタッフ全員が声をかけ合いながら対象者を誘導しているため、すべての親子に確実にパックを手渡せています。“ブックスタートまで含めて健診”という認識が、職員やボランティアだけでなく、保護者の間にも浸透してきているようです。（生涯学習課／沖縄県那覇市）



沖縄県那覇市

事例

保護者アンケートを行い、健診で実施するニーズを把握

ブックスタートの実施機会について保護者のニーズを把握するため、事業開始前に7か月児および1歳6か月児健診でアンケートを行いました。その結果、絵本を受け取る機会として「健診日」を希望した人が約80%、その理由として約85%の人が「一度に終わるから」と回答しました。この数字も併せて医療対策課と協議し、健診での実施が決まりました。（図書館／大分県中津市）

質問・調査項目	回答数	割合
Q1 読書はいつから？	42	92.1%
(1) 1歳未満	4	9.5%
(2) 1歳～2歳未満	38	82.6%
(3) 2歳～3歳未満	0	0.0%
(4) 3歳～4歳未満	0	0.0%
(5) 4歳～5歳未満	0	0.0%
(6) 5歳以上	0	0.0%
計	42	92.1%
Q2 読書はいつから？	42	92.1%
(1) 1歳未満	4	9.5%
(2) 1歳～2歳未満	38	82.6%
(3) 2歳～3歳未満	0	0.0%
(4) 3歳～4歳未満	0	0.0%
(5) 4歳～5歳未満	0	0.0%
(6) 5歳以上	0	0.0%
計	42	92.1%
Q3 読書はいつから？	42	92.1%
(1) 1歳未満	4	9.5%
(2) 1歳～2歳未満	38	82.6%
(3) 2歳～3歳未満	0	0.0%
(4) 3歳～4歳未満	0	0.0%
(5) 4歳～5歳未満	0	0.0%
(6) 5歳以上	0	0.0%
計	42	92.1%

アンケート集計
(大分県中津市)

0歳児集団健診以外での取り組み ～その他の母子保健事業で実施する

自治体の中には、0歳児健診が病院での個別受診のため、集団健診を実施していない地域もあります。こうした地域の多くは、育児相談や離乳食教室、予防接種、1歳6か月児健診など、保健センターで行われる母子保健事業でブックスタートを実施しています。なぜなら保護者は、忙しい育児の中でも、赤ちゃんの発育や健康に関する事業には足を運ぶ可能性が高いからです。こうした事業と関連させてブックスタートを行うことで、地域に生まれたすべての赤ちゃんとの保護者に出会える機会を確保することができます。

0歳児健診以外の母子保健事業の例

- 健康相談・育児相談・乳児相談
- BCG予防接種
- 1歳6か月児健診
- 股関節脱臼検診
- 歯科検診
- 離乳食教室
- 家庭訪問



様々な母子保健事業での実施

健康相談で

保健師は、健康相談を滞りなく行うことを第一に考えるため、保護者への細かなフォローまで手が回らない場合があります。でも、ブックスタートがあることで、ボランティアが絵本を読みながら、赤ちゃんとのふれあい方を自然なかたちで伝えたり、親子の普段の様子に耳を傾けたりしてくれます。健康相談とブックスタート、それぞれに目的があることをスタッフが認識しながら、お互いのメリットを共有してやっていけば、ひとつの活動としてうまく機能していくのではないかと考えています。(健康課／愛知県尾張旭市)

1歳6か月児健診で

0歳児の集団健診が行われていないため、どの機会に実施するかが課題でした。一度事業を始めても、パックの手渡し率が低ければそれを上げることに力を注がねばならず、本来取り組むべき事業そのものの充実へ、目を向けることが難しくなってしまいます。それに、ブックスタートは地域に生まれたすべての子どもとその保護者に、幸せになってもらいたいという願いが込められた活動でもあります。“すべて”の赤ちゃんに出会うことを大切にしたいと考え、市に生まれたすべての赤ちゃんが最初に集まる機会である、1歳6か月児健診で実施することにしました。(図書館／神奈川県藤沢市)

股関節脱臼検診で

股関節脱臼検診後に実施しています。股関節脱臼検診は受診率も高く、所要時間も短いことから、検診の後に一組一組の親子とじっくり話をすることができます。中には遅くまで残って、絵本や親子で出かけられる場所について、話を聞いて帰る保護者もいます。(福祉保健課／徳島県上板町)



愛知県尾張旭市



神奈川県藤沢市



徳島県上板町

家庭訪問で

「こんにちは赤ちゃん事業」で実施しています。中には「まだ目もちゃんと見えていないのに絵本なんて……」という保護者もいます。そんな時には「うちの人の声を赤ちゃんに聞かせてあげるきっかけづくりなんです。絵本を読む時って、大人もちょっとホッとしますよね」などと話したり、「子育てはどんな感じ？ ちょっとしんどい?」「お母さん、頑張っているね」と保護者の気持ちを受け止めるような声かけをしています。(子育て・家庭支援課／兵庫県川西市)



家庭訪問の案内にブックスタートがあることも紹介
(兵庫県川西市)

ブックスタートのための機会を設定する ～すべての親子に出会うためのアプローチを

0歳児集団健診がない場合、新たに「ブックスタートのための機会」を設定する方法もあります。しかし、そうした場に参加する人は「その場にわざわざ足を運ぶ人」、つまり「関心の高い保護者」に限定されてしまいがちです。広報などを充実させても、地域に生まれたすべての赤ちゃんと保護者に出会うことが難しくなります。そのため、参加しなかった対象者へのアプローチ方法を、十分に検討する必要があります。



図書館では45%、1歳6か月児健診と合わせ97%の親子に配付

ブックスタートを実施していたポリオの集団接種がなくなることが決まった際、どのような方法であれば、すべての親子にブックスタートを実施できるかが課題になりました。検討の結果、市内3か所の図書館でそれぞれ月1回、3か月児から参加できるブックスタートの日を設定。さらに、月4回行われる1歳6か月児健診にも図書館員とボランティアが出向いて実施することにしました。こうしたやり方は手間も人手もかかりますが、対象者全員に出会うためには、図書館だけでなく、市に生まれたすべての赤ちゃんが最初集まる機会である、1歳6か月児健診でも実施することが最善であると考えたのです。

図書館でのブックスタートの参加率は対象者の約45%ですが、1歳6か月児健診と合わせると97%（2016年度実績）の親子に絵本を手渡しています。(図書館／福井県福井市)



図書館でのブックスタート（上）
と1歳6か月児健診での
受付（下）の様子
(福井県福井市)



子育て支援センターでの実施と家庭訪問でのアプローチ

市内5か所の子育て支援センターで、6か月のすべての赤ちゃんを対象に月1回、ブックスタートの日を設けています。参加できなかった親子には再度案内をしますが、それでも出会えない保護者にも、安心して子育てができるような関わりを早期に築けるよう、支援センターの職員が家庭訪問を行い、ブックスタート・パックを手渡しています。

また、地域の子育てボランティアの協力を得て、子育て支援力を強化。保護者との結びつきをより深くし、市の子育て支援体制を途切れることなく充実させています。(児童福祉課／三重県いなべ市)

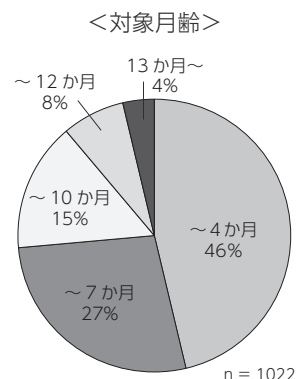


子育て支援センターでの様子
(三重県いなべ市)

対象月齢を設定する

0歳児健診の多くは、3～4か月、6～7か月、9～10か月などの月齢で設定されています。そのうち、どの月齢を保健センターでの集団健診とするかは地域により様々です。さらにどの月齢を対象にしてブックスタートを実施するのも、地域の判断により異なります。

例えば、ブックスタートはきっかけづくりの取り組みだからこそ、できるだけ早い時期に実施したいと3～4か月児を対象にする地域もあれば、赤ちゃんの反応がよりわかりやすい時期に実施したいと9～10か月児を対象にする地域もあります。健診の受診率や会場の雰囲気なども考慮して対象月齢を決めます。



実施状況確認シートをもとに集計
(2018年3月末現在)

開始時期を設定する

ブックスタートは、実施が決定した翌月からすぐに開始できるような事業ではありません。実施に向けて十分な準備期間をとる必要があります。また、新規事業として実施する際には、市民に理解されやすいよう、対象者の区切り方を明確にすることも大切です。

開始時期の設定と対象者の区切り方

＜例：4か月児を対象とする場合＞

■ 年度初めの4月から実施

事業開始前年度の12月以降に生まれた赤ちゃんが対象となります。4月に始めることで、市民に新規事業の開始をわかりやすく伝えられます。一方、議会の予算決議から間がないことや、年度当初に人事異動が行われることもあり、通常業務が多忙な時期に、新規事業を開始することになります。

■ 対象者を学年で区切り、8月から実施

対象者を学年単位で区切り、開始年度の4月以降に生まれた赤ちゃんを対象として8月から開始します。それにより、7月までを準備期間に充てることができるだけでなく、同級生どうしの不公平感も解消されます。

親子への支援の糸口として ～乳幼児健診とブックスタート

心理相談員
広島都市学園大学教育学部 教授
田丸 尚美



地域で暮らす概ね9割の親子と出会える乳幼児健診では、子育てを支援する機会として、保健師をはじめ多様な専門職が相談にあたっています。親にとっては、我が子の成長を確かめたい、日々の子育てで生じる疑問を聞いてみたいと思い、健康面や発達のことなど何かあったらどうしよう……という緊張感が交錯する、ジレンマを抱えた場でもあります。

1歳6か月児健診の心理相談で出会ったAさん。診察の様子を尋ねても「別に」とそっけなく、不安というより不機嫌そう。耳の病気、人見知りなど日常の心配事を、むしろ多弁なくらい話され、立ち入られたくない緊張を感じとれました。子どもと遊びながら関心を向けて聞いているうちに「この子は赤ちゃんのころからゆっくりめで、歩き始めも遅かった……。祖母らに心配される度に、不安になる。父親は仕事が忙しいのをいいことに、私任せ」と語り始めました。家族との関係上、抑えていた我が子の発達上の不安を、怒りや不満とともに表されたAさんは、その後遊びを通して子どもの成長を支える親子教室に通い始め、不安に向き合っていけました。

相談は、お話を聴くだけでなく、親子の関わりに「ふれる」場です。座り込んだまま子どもが動き回るのを見ないようにしていたBさん。「落ち着きがないとかじゃなく、この子と“いる”ことにイラつく」と我が子との関わりにくさを訴えました。

子どもが動く度に連れ戻し、落ち着いて座れないCさん。“我”のはっきりして

きた子どもの気持ちをどこまで受け止めたらいいか迷うことばかりと、自信の持てない育児について訴えました。

それぞれの関係に影響されて、関わりが展開します。子どもが積み木を崩した時に、相談員が「びっくりしたねぇ！」と面白がっているのを見て、積ませなくちゃ……と焦り顔だった親の肩の力が抜けたります。場面を共有する中で、親子の関わりに関与していくことができます。

乳幼児健診のブックスタートの時間は、親子と場面を共有できるという点で、健診の中でも独特だと感じます。絵本を「読みきかせる」というより、絵本（時にはわらべうたや手遊び）を「共有する」ことを大事にしているため、親子と関わり合う時間を自然につくり出しています。しかも、相談のように心配事をテーマにするのではなく「楽しみ」を共有できるので、赤ちゃんの笑顔に驚いたり、絵本の面白さに思わず顔がほころんだりされるお母さんたちの姿によく出会います。慣れない子育てに慌ただしく追われるようで、見失っていた自分の優しさに、親自身が気付かれる例もありました。

ボランティアのつくり出してくれる穏やかな時間～「ゆっくり、ゆったり、にっこり」した関わりから、それぞれの親子の日常が垣間見えたり、健診スタッフには見せない顔を見せてもらったりします。ホッとして、力を得たように帰られる親子の姿に、ブックスタートは保健師や相談員も支援の糸口をつかむことができる、かけがえのない場になっています。

2 パックを手渡せなかった対象者へのアプローチ方法を考える

保健センターでの0歳児健診の受診率は、多くの地域で95%を超えています。しかし、健診に来られない残りの5%の対象者にも、アプローチをする必要があるのではないのでしょうか。

子育てに困難さを感じている保護者にこそ伝えたいこと

保護者にとって、子育ては子どもの成長を感じる喜びがある一方、不安や困難さを感じることも多いものです。自分が親になるまで、赤ちゃんのお世話をしたことがなく、どうしていいかわからない。世の中にあふれる情報に振り回され、我が子の発達に少しでも遅れを感じると不安になり、同じ月齢の赤ちゃんが集まる健診に行く勇気がない。そんな様々な思いを抱える保護者がいます。中には、精神的に追い詰められ、引きこもりや育児放棄など、深刻な状況に陥っている場合もあります。

健診に来ることが難しいこうした保護者にこそ、直接会って話をし、地域が子育てを応援していることを自然なかたちで伝えたり、絵本を開くゆったりとした時間を感じてもらうことが必要なのではないのでしょうか。

アプローチする機会の例

- 母子保健事業で
保健センターで行っている、他の母子保健事業で、パックを手渡します。
- 家庭訪問で
保健師が行っている健診未受診者への家庭訪問の際にパックを手渡します。母子保健推進員、民生委員、児童委員、子育て支援センター職員が訪問し、ブックスタートを実施する場合もあります。
- 親子が訪れる施設で
保健センター、子育て支援センター、保育園、図書館など、親子が足を運びやすい施設で、随時パックを手渡します。

事例

アプローチをしなければ聞くことのなかった「支援を求める声」

すべての対象者にパックを届けるために、主任児童委員がブックスタートに参加しなかった家庭への訪問を行っています。お宅に伺ってみると、すぐにドアを開けてくれる方ばかりではなく、何度も訪問してやっと話を聞いてもらえる場合もあります。引っ越してきたばかりで知り合いのいない中、必死に子育てをしている家庭に伺った際には、「何かお手伝いできることはありますか？」との問いに、「たくさんあります」と涙ぐみながら答えてくれた保護者もいました。こちらからアプローチをしなければ決して聞くことのできなかった「支援を求める声」を聞き、活動の重要性を改めて感じています。(主任児童委員／千葉県茂原市)



バックを持参することで、家庭訪問での会話がスムーズになった

ブックスタートを実施している健康相談に来られなかった対象者には、保健師が家庭訪問をしています。パックを持参することで、家庭訪問を受け入れてもらいやすくなりました。

訪問時には、親子の様子を見ながら絵本を紹介。読みきかせがあることで場がなごみ、保護者との会話がスムーズになります。また、普段の遊びの様子などを自然な会話で聞くことができたりと、具体的な支援にもつながっています。（健康増進課／千葉県鎌ケ谷市）



訪問時に保健師が読みきかせ
(千葉県鎌ヶ谷市)



1歳6か月までの様々な母子保健事業を活用

ブックスタートを実施している6～7か月児乳児相談に参加しなかった対象者へは、家庭訪問や10～11か月児乳児相談などの機会を捉えて配付。それでも手渡せなかった人には、最終的に1歳6か月児健診までにブックを手渡せる体制を整えています。
(こども未来課／長崎県南島原市)



対象者の希望に合わせて手渡す機会を調整

乳幼児健康相談でブックスタートを実施しています。参加しなかった人へは再度案内しますが、相談への参加が難しい人には個別に連絡して希望を確認します。保育園で子どもの送迎時に手渡したり、家庭訪問をしたり、子育て支援センターで実施している各種教室で手渡したりします。どの機会でも、保健師が活動の趣旨を説明し、保育士が読みきかせをしてパックを手渡します。対象者の希望に合わせて、柔軟に対応できる体制を整えています。（福祉課／三重県南伊勢町）



図書館での手渡しがその後の来館のきっかけにも

健診未受診者には、図書館でパックを受け取れることを郵便で通知。図書館では、ブックスタートと同じように読みきかせをしてメッセージを伝えます。中には初めて来館する人もいるので、授乳コーナーやトイレ、赤ちゃん絵本コーナーなどを案内します。実際に館内を見ることが、その後の図書館利用のきっかけにもなっているようです。(図書館／静岡県御殿場市)

ブックスタートのご案内

図書館では、毎月2回保健センターで、
6月・7月児健診時の対象者にブックスタート
を実施しています。

当日健診に参加できなかった方には、図
書館で結核の入ったブックスタートパッ
クのプレゼントをしていますので、おちや
んと一緒ににお出かけください。

受付場所：御園地区は区保健窓口
交付時期：毎年10時から午後4時まで
持ち帰る。このほか、子育て支援
受取期間： 年 月 来まで
（年齢別：歳まで）

※図書館の休館日
月曜日・祝日のほか毎月初日など
（詳しくは、お問い合わせください。）



未受診者への送付ハガキ
(静岡県御殿場市)

3 対象者へ周知する

「“ブックスタート”という言葉聞いたことがない」。そんな保護者もいるかもしれません。ましてや、ブックスタートでどのようなことをするのか、活動内容を正確に把握している人は多くないでしょう。まずは対象者にブックスタートを知ってもらうことが大切です。

事前に周知する意義

対象者全員に配付する通知や、事前に保護者と接する機会を利用して、ブックスタートを案内します。実施会場のほか、当日は絵本の読みきかせなど楽しいひとときがあること、パックがもらえることなどを知らせます。

「子どもを授かるまで、行政が行う子育て支援事業の内容を全く知らなかった」という市民も多いはず。事前に活動の内容を知らせておくことで、スタッフが会場で親子に話しかける際も受け入れてもらいやすく、よりスムーズに会話が進みます。



保護者の声 突然声をかけられて戸惑いました

離乳食の話などが続き、「長いな～、疲れたな～」と思っていた時のこと。突然スタッフの方から、矢継ぎ早な口調で「ブックスタート、もう受けた？ 話は聞いた？」と聞かれ、正直に言うと「急に何なの？ もういいです」という気持ちになりました。事前のお知らせに、ブックスタートのことも書いてあった気がしますが、何をするのか理解できていなかったの、こちらも話を聞く心づもりができていなかったし、警戒してしまったんですね。事前の案内は丁寧にしたほうがいいと思います。(D市)

事前周知の方法例

- 資料や他事業で対象者に案内
事前に対象者に配付する資料や、保護者と出会う機会を利用して、ブックスタートを案内します。
例：母子手帳交付時／プレママ・プレパパ教室／出生届け受付時／乳児家庭全戸訪問／健診案内送付時
- 案内ポスターを掲示
親子が普段から足を運ぶ場所にポスターを掲示します。事前周知の役割だけでなく、ブックスタートを受けた対象者が、絵本のひとときを思い出す機会にもなります。
例：保健センター／子育て支援センター／図書館／保育園・幼稚園／市民課／小児科・産婦人科医院
- 実施会場でブックスタートの内容を紹介
活動の実施会場に、当日の流れや内容、所要時間などを明記した案内を掲示します。また、健診の流れを説明する際に、この後ブックスタートがあることを伝えることもできます。



小児科にてポスターを掲示（上）
パックの内容を会場に掲示（下）
（山口県岩国市）

事例

事前周知の工夫

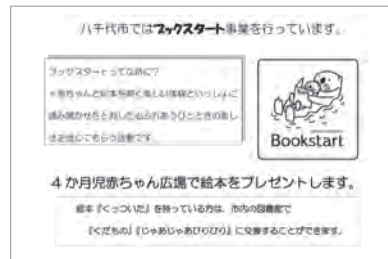
健診案内送付時にチラシを同封

健診の案内を送付する際に、ブックスタートのチラシも同封しています。活動の趣旨や、いつ、どこで、何をするのかをわかりやすく伝えています。また、手渡す絵本のタイトルを事前に知らせ、保護者自身が購入する絵本との重複を防げるようにしています。(図書館／鳥取県伯耆町)



家庭訪問時に説明

乳児家庭全戸訪問の際に、ブックスタートを紹介。訪問スタッフからの「パックの写真もあると、より説明がしやすいのでは」という提案を受け、説明用の写真資料も用意しました。(図書館／千葉県八千代市)



事業紹介チラシを配付 (上)
説明する際に提示する写真資料 (下)

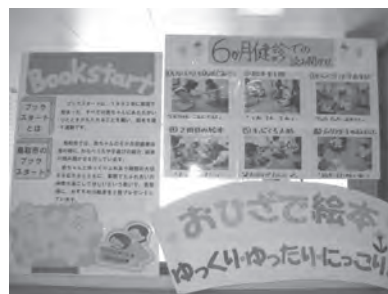
健診開始前に説明

開始前のオリエンテーションでブックスタートについて図書館員から説明します。活動の趣旨、健診の最後に行うこと、ボランティアが絵本を読むこと、パックの中に入っているものなどを伝えます。(図書館／愛知県豊田市)



健診会場で活動紹介

会場の待ち合いに紹介パネルを展示。実施の様子を写真付きで具体的に紹介しています。これから受けるブックスタートを、楽しみにしてもらえたらと思っています。(保健センター／鳥取県鳥取市)



4 実施する「場」をつくる

会場の中にブックスタートのコーナーをどのように作るのか、健診のどのタイミングに組み込むのかを考えます。実施環境や親子の状況を考慮しながら、適切な「場」を設定することが大切です。

親子がリラックスできる雰囲気づくりを

小さな赤ちゃんを連れて公共の場に出向くことは、保護者にとって大変なこと。特に健診は、我が子の成長や自分の育児についてチェックされるように感じ、緊張している人もいるかもしれません。また、人見知りや場所見知りをする赤ちゃんもいるでしょう。

さらに、ブックスタートで実際に親子と接する時間は、5～10分程度の地域が多いようです。こうしたわずかな時間の中でも、親子がリラックスしながら、集中して話を聞くことのできる環境をつくるのが大切です。あたたかな雰囲気の中、赤ちゃんが絵本を楽しむ様子を見たり、地域の人と話したりすることで、絵本を開く時間の楽しさがごく自然に伝わります。



岩手県大船渡市

健診の流れに組み込むタイミング

健診は、身体測定や小児科医による診察など、実施項目が多く、時間的な余裕が少ない場といえます。事業を健診会場で円滑に行い、受診者全員にもれなくパックを手渡すためには、どのタイミングに組み込むとスムーズに実施できるのか、会場の状況に合わせて検討する必要があります。ブックスタートを「健診項目のひとつ」として明確に位置付けたり、待ち時間を有効に活用することも大切です。

健診項目のひとつとして実施する

健診の流れの中に無理なく溶け込めるよう工夫をしながら、各項目の間、あるいは最初や最後の項目としてブックスタートを実施します。

待ち時間を活用する

多くの対象者が集まる健診の所要時間は長くなりがちです。そこで、小児科医師による診察や保健師の個別相談前などの長い待ち時間を活用して実施します。親子にとって手持ち無沙汰になりがちな時間を、楽しいひとときにすることができます。その場合には、ブックスタートの途中で健診のために対象者が名前を呼ばれたり、健診の順番を飛ばされたりすることのないよう、工夫が必要です。



待ち時間にブックスタートがあることを掲示で案内
(埼玉県鴻巣市)

事例

実施のタイミング

前半に実施

受診者すべてにブックスタートを受けてもらいたいですし、絵本はただ手渡すだけではなく、実際にその場で読むことが大切です。でも、ブックスタートを最後にすると、早く帰りたいといった理由から絵本を受け取るだけで帰ってしまう保護者がいるかもしれません。読みきかせをして、赤ちゃんがどんな風に絵本を楽しむのかということを実感してもらうためにも、前半の項目として組み込んでいます。（図書館／群馬県伊勢崎市）



群馬県伊勢崎市

最後に実施

健診終了後にブックスタートを行っています。会場には、我が子の初めての集団健診で、少し緊張気味の保護者もいます。でも、ブックスタートでは、保護者とボランティアが赤ちゃんを囲んでゆったりと世間話を楽しんでいる様子がよく見られます。ホッとした笑顔で帰宅する親子を見ると、保健師としても安心し、嬉しい気持ちになります。（健康推進課／宮城県角田市）



宮城県角田市

開始前の待ち時間に実施

健診の受付が終了し、順番を待っている親子にスタッフが声をかけてブックスタートを行っています。パックを受け取った親子は、早速絵本を開いてみたり、会場に用意されたたくさんの絵本を手にとってみたり、また近くの保護者どうしで会話がまったりと、待ち合いスペースは一層なごやかな雰囲気となります。ブックスタートがあることで、親子がリラックスして健診を受けられるようです。（図書館／長野県安曇野市）

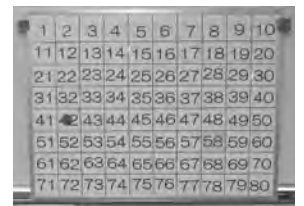


長野県安曇野市

事例

健診の流れを滞らせずブックスタートを実施するために

問診の時間を長く取れるように、保健師は細かいところまで流れを配慮しながら事業を実施しています。そのため、ブックスタートを行うことでその流れを壊してはいけなと考え、待ち時間に読みきかせを行う際、どうすれば親子にゆったりと話を聞いてもらえるのか、保健師と話し合いを重ね、シミュレーションを行いました。その中で、何番目の対象者までが問診に呼ばれているのかを把握するためのホワイトボードを設置するアイデアが生まれました。このボードがあることで、待ち時間の見当がつくようになり、すぐに呼ばれそうな人には読みきかせを後に行うなど、臨機応変な対応ができるようになりました。（子育て支援課／静岡県沼津市）



問診の進行状況を示すホワイトボード。現在呼ばれている人の番号に丸いマグネットがつけられている（静岡県沼津市）

ブックスタートのコーナーをつくる

対象者があたたかく迎えられていることを感じながら楽しめるよう、実施環境に合わせて、ブックスタートのコーナーをつくります。

コーナーを設置する場所の例

■ ブックスタートのための部屋を用意する

保健センターの一室を、ブックスタート会場として利用します。健診の慌ただしさから離れて、落ち着いた環境を確保できます。



茨城県筑西市

■ 健診会場の一角にコーナーを設置する

健診が広いフロアで行われる場合などは、その一角にコーナーをつくります。健診全体の状況が把握でき、その場の流れに臨機応変に対応できます。



北海道恵庭市

■ 待ち合いスペースを活用する

健診の待ち合いスペースにコーナーをつくることもできます。特別な場所を用意せず、順番を待つ親子の元へスタッフが行き、実施する地域もあります。



東京都北区

■ ロビーなどの空きスペースを活用する

親子の動線を考え、必ず通るロビーなどのスペースで実施することもできます。



東京都狛江市

親子が座る場所の例

■ カーペットや畳に座る

赤ちゃんが絵本に手を伸ばしたりしても、保護者のひざから落ちないか心配することなく安心して話が聞けるよう、カーペットや畳などの部屋で実施します。赤ちゃん自身が自由な姿勢で絵本を楽しむこともできます。



大分県日出町

■ イスに座る

健診会場にあるイスやテーブルを使って実施します。親子にとっては、靴を脱ぐ手間が省けるというメリットもあります。



群馬県大泉町

■ 座布団やマットで座る位置を固定する

広い部屋に保護者が自由に座れるようにすると、部屋の隅に固まってしまうがちです。予め座布団やマットを敷いてコーナーをつくっておくことで、一組一組適度な距離を置いて座ることができます。



千葉県茂原市

親子とスタッフの位置関係の例

■ 親子が壁側(窓側)を向いて座る

赤ちゃんや保護者は、人の動きが多い方向を向いて座ると、どうしてもそちらが気になり、落ち着いて読みきかせや説明を聞くことができません。通路を背にしたり、窓のカーテンをひいておくなど、人の動きや外の様子に気を取られないように座ってもらいます。



福井県福井市

■ 保護者と手渡す人の向き合う角度が90度になるように座る

お互いの視線が正面からまともにぶつからないよう、保護者の正面から90度ずれた位置、L字型になるようにスタッフが座ると、話しやすい雰囲気が生まれることもあります。



兵庫県三木市

■ スタッフが待機する位置に気を配る

入口の正面にスタッフがずらりと並んで親子を出迎えると、かえって入りづらい印象を与えてしまうこともあるかもしれません。出迎えるスタッフは、脇に控えるようにしたり、手の空いているスタッフは、目立たないよう端に座って待つ地域もあります。



千葉県鎌ケ谷市

スタッフの親子への接し方の例

■ スタッフの立場を明らかにする

どんな人が会場にいるのかがわかると、保護者も安心してスタッフと話をすることができます。ブックスタートのスタッフであることを明らかにするために、エプロンを身に付けます。さらに、名札を対象者に見せながら自己紹介をします。



長崎県雲仙市

■ 手あそびやわらべうたを取り入れる

活動の趣旨を説明する前に、手あそびやわらべうたを楽しむことで、よりなごやかな雰囲気をつくり出すこともできます。



千葉県鎌ケ谷市

■ スタッフの人数を多めに配置する

ブックスタートの説明や読みきかせを担当する人以外にも、全体を見守り、臨機応変に対応できるスタッフを配置しておくことで運営がスムーズです。対象者をコーナーに誘導する、順番待ちをしている保護者に気を配る、赤ちゃんと一緒に来たきょうだいの面倒をみる、といった対応ができます。



徳島県上板町

会場の掲示などの例

■ ブックスタートのコーナーであることを示す掲示物を貼る

ブックスタートのコーナーであることが対象者にひと目でわかるよう、ポスターなどを掲示します。「ここはブックスタートの話を聞くところだ」と、保護者に認識してもらいやすくなります。



東京都八丈町

■ コーナーを飾り付ける

カラフルなマットを敷いたり、ぬいぐるみを置いたり、手づくりの掲示物で会場を飾り付けたりすることで、親子がホッとひと息つけるような、なごやかな雰囲気をつくることもできます。



埼玉県宮代町

■ 様々な種類の絵本を置く

絵本リストに載っている絵本などを会場に置き、実際に手に取れるようにして、手渡すもの以外にもたくさんの楽しい絵本があることを知らせます。



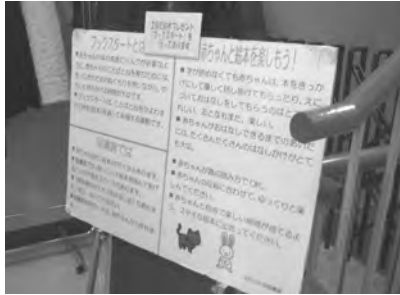
長野県安曇野市



会場での工夫

案内板を保護者の動線に

ブックスタートは建物の2階で行っています。そのため、1階の階段前に活動に関する案内板を置き、保護者の目に留まるようにしています。(図書館／東京都北区)



子育て支援情報ファイルを用意

子育て支援情報をまとめたファイルを持ち合いスペースに用意。空いた時間に保護者が自由に見られるようにしています。(こども未来課／長崎県南島原市)



つい立てを置いて人の動きを隠す

会場は普段、長イスや自動販売機などが置かれ、通路にもなっている保健センターのロビー。そこで、つい立てで人の動きを隠し、マットやぬいぐるみを置いて、あたたかな空間をつくっています。(図書館／山口県岩国市)



絵本コーナーに書誌情報カードも

絵本の紹介コーナーを設置。親子が気に入った絵本を、後で図書館や書店で探せるよう、自由に持ち帰ることができる、絵本の情報カードも用意しています。(こども家庭課／群馬県高崎市)



5 絵本をひらく「体験」とともに ブックスタート・パックをプレゼントする

赤ちゃん和絵本を読み、絵本の入ったブックスタート・パックをプレゼントするのがブックスタート。保護者が「我が子と絵本を楽しみたい」と感じるように、一組一組の親子に丁寧に対応することが必要です。

絵本をひらく「体験」と「絵本」をセットでプレゼントする意味

絵本をただプレゼントするだけでは、保護者の中には「赤ちゃんにはまだ早いのでは？」としたり、「読まなければならない」とプレッシャーに感じたりする人がいるかもしれません。しかしブックスタートでは、スタッフがその場で赤ちゃんに絵本を読み、そのひとときを保護者も一緒に「体験」してもらいます。赤ちゃん和絵本を開く時間の楽しさを言葉で説明することは、案外難しいもの。保護者自身が楽しさを実感することが、活動の趣旨を伝える何よりの近道になるのです。この「体験」とともに絵本を持ち帰ってもらうことで、家庭でもそうした時間を持つ具体的なきっかけを届けることができます。



京都府宇治市



事例

絵本を手渡すことで、保健師ではできない子育て支援を

赤ちゃん和保護者が時間を共有する、そのツールになる絵本が家庭にある意味は大きいです。そう感じたきっかけは、アンケート調査に寄せられた保護者の感想でした。「3歳になった今でも時々、もらった絵本を読んでいます。当時と違う反応に成長を感じ、また当時の思いがよみがえり、子どもを愛おしく思えます」というコメントを読んだ時、ブックスタートは保健師の通常の業務ではできない子育て支援だと感じました。そして改めて、楽しい体験と一緒に絵本を手渡す必要性を認識しました。(健康支援課／千葉県千葉市)



千葉県千葉市



事例

お父さんが読み始めたのは、ブックスタートで絵本をもらったから

毎週図書館にやってくるお父さん。ある日、絵本が好きなのか尋ねたところ、「実は子どもに本を読むようになったのは、ブックスタートで妻が本をもらってきたからなんです。試しに読んでみたら、子どもが本をよく見てくれたので、それから何となくはまっちゃいました」と話してくれました。そのお父さんは、お母さんが絵本を持って帰らなければ、家で読むことはなかったかもしれません。そう考えると、やはり絵本をプレゼントする意義は大きいと思います。(図書館／埼玉県三芳町)



埼玉県三芳町



事例

赤ちゃんとの関わり方を絵本を使って伝えられる

「言葉をまだ話せない赤ちゃん和どうやって過ごせばいいですか?」「何をして遊べばいいですか?」と保護者から質問され、説明に戸惑うことがあります。でも、ブックスタートで読みきかせをしてみると、赤ちゃんからは、手を伸ばしたり、読み手や保護者の顔を見たりという反応が返ってきます。そんな様子を実際に見てもらった上で「本も関わり和きっかけとして使えるんですよ」と説明すると、保護者にもすんなり納得してもらえます。(健康課／愛知県尾張旭市)



愛知県尾張旭市

一組一組に絵本をひらく時間の楽しさを伝える

ブックスタートを行う時に、一人のスタッフが一度に大勢の親子を相手にする場合と、1組の親子を相手にする場合とでは、対象者が受ける印象は大きく異なります。例えば集団指導のように、一人が20組に対して話をする場合、保護者は「自分のために話をしてくれている」という印象を持ちにくく、大勢であるがゆえに、隣の人との話が始まってしまうこともあります。反対に、一人が1組もしくは2～3組程度の少人数のグループごとに話をすると、一人ひとりの顔が見え、保護者も「自分のために話をしてくれている」と感じ、話を聞いてくれるものです。

赤ちゃんの立場で考えた場合にも違いがあります。離れた場所から読みきかせると、絵本に集中できない可能性があります。また、赤ちゃんの絵本の楽しみ方は千差万別。1組または2～3組であれば、それぞれの赤ちゃんの様子に合わせて声をかけることができるため、保護者が「うちの子はどう楽しむのか」ということを実感しやすくなります。

さらに、1対1であるからこそ、一方通行の説明ではなく会話が生まれ、人と人とのつながりも生まれるのではないのでしょうか。



兵庫県芦屋市

<NPOブックスタートからの提供物>

■ ブックスタート・スタッフガイド

ブックスタート・パックの手渡し方や、対象者に接する時のポイントなどを、事例やQ&Aをまじえて紹介。子育て支援の専門家からのアドバイスも掲載しています。



(A5/32ページ)

事例

保護者の話をじっくり聞けるのは1対1の醍醐味

「人と話す機会がなかった」という保護者の話を、ボランティアがじっくり聞くことができます。悩みについて答えを出すのではないのですが、それでも保護者から「元気になった」と言われたりします。保護者一人ひとりに寄り添えるのが、1対1で行う醍醐味だと感じています。(図書館／福岡県筑後市)



福岡県筑後市

事例

集団から少人数での実施に変更

以前は5～7組ずつの親子に実施していましたが、集団の読みきかせでは赤ちゃんの反応がまちまちで、保護者に趣旨が伝わっているかという不安もありました。健診人数の都合もあり、時々2組に対して実施することがありましたが、その時は反応が異なり、赤ちゃんも保護者もよく聞いてくださるという感触がありました。そこで、会場設営やボランティアの人数、実施方法などを大幅に見直し、2組ずつに対応していくことにしました。(図書館／愛知県蒲郡市)

6 外国語を母語とする対象者への対応を考える

日本には現在、外国語を母語とする人が多く暮らしています。その国籍や出身地は様々で、日本に定住する人も増えてきました。ブックスタートは「すべて」の親子が対象の活動。人数の多い少ないに関わらず、多様性に配慮した対応を考えます。

外国語を母語とする保護者に活動の趣旨を伝える

ブックスタートに来る保護者は、日本語がある程度わかる人や、通訳者と一緒に来る人が多いようです。しかし、日本語でのやり取りが難しい場合でも、身ぶり手ぶりをまじえたり、写真やイラストを使ったりしながら話をしてみましょう。「やさしい日本語」*を取り入れてみてもよいかもしれません。

また、絵本を開いて語りかけてみると、赤ちゃんはどこの国の言葉であれ、優しい語りかけと絵本の世界に夢中になるはず。そんな赤ちゃんの姿は、保護者に我が子と絵本を楽しめることを伝える、確かなメッセージとなります。手渡す絵本が日本語のものでも、母語で自由に楽しめることを併せて伝えれば、日本語に慣れていない保護者も安心して読むことができるのではないのでしょうか。



佐賀県武雄市

※ 簡易な表現を用いる、文の構成を簡単にするなど、外国人にもわかりやすくした日本語のこと。災害が起きた時に有効な言葉として考案されたが、現在は、平時における外国人への情報提供手段としても研究されている。

<NPOブックスタートからの提供物>

- 多言語版 アドバイス ブックレット「赤ちゃんといっしょに はじめまして 絵本」
「赤ちゃん和絵本を開く時間の楽しさ」を伝える冊子を8言語に翻訳。日本語併記です。(英語／中国語／韓国語／ポルトガル語／タガログ語／スペイン語／タイ語／ベトナム語)
※詳しくはP58および「ブックスタート購入ガイド」をご確認ください。
- 多言語版 ブックスタート紹介シート
活動の趣旨を伝える文章(アドバイス ブックレット裏表紙)を11言語に翻訳。日本語併記です。(英語／中国語／韓国語／ポルトガル語／タガログ語／スペイン語／タイ語／ベトナム語／ヒンディー語／ネパール語／インドネシア語)
- 多言語版 絵本紹介シート
外国語を母語とする保護者が、受け取った絵本を楽しむ際の手助けとなるよう、絵本の概要を8言語で紹介。日本語での読みもローマ字で表記しています。(英語／中国語／韓国語／ポルトガル語／タガログ語／スペイン語／タイ語／ベトナム語)



多言語版 ブックスタート紹介シート



多言語版 絵本紹介シート

事例

「特別な」配慮より「あなたに伝えたい」気持ちが大切

日本人対象者への対応が画一的でないように、外国の方に対しても、一人ひとりに向き合います。そして求められた時に適切な対応ができればよいと思うのです。たとえ言葉がわからなくても、「あなたにこれを届けたい」という思いがあれば、身ぶり手ぶりでも伝わります。私たちは外国の方も含めたすべての親子に心を開き、赤ちゃんのことを思う気持ちを、保護者と共有したいと願っているだけ。だから気負わなくていい。「普通」でいいんですよ。(ボランティア/群馬県太田町)



言葉の壁を越えて楽しめる
絵本のひととき
(群馬県大泉町)

事例

多言語の絵本（洋書）を用意

様々な言語の絵本を図書館からブックスタート会場に持参して、保護者が自由に手に取れるようにしています。「図書館にはこういう本もありますよ」と案内すると、早速来館する親子もいます。(図書館／愛知県西尾市)



保護者が手に取れるように
展示された多言語の絵本
(愛知県西尾市)

事例

活動紹介リーフレットの多言語版を作成

対象者向けの活動紹介リーフレットの作成にあたり、市内にあるブラジル総領事館から「日本語版のリーフレットをそのまま翻訳しても意味がない。市内にある図書館の一覧を載せるより、ブックスタートに行くとどのようなサービスが受けられるのかを詳しく紹介した方が、実際に行ってみようと思うのでは？」とのアドバイスを受けました。そこで、多言語版のリーフレットには、ブックスタートを実施している場所と日時に加え、会場で行われることを詳しく紹介することにしました。（図書館／静岡県浜松市）



英語・中国語・
ポルトガル語版を用意
(静岡県浜松市)

事例

様々な言語で「こんにちは」

外国語を母語とする保護者に、少しでもリラックスして会場に入ってきてほしいと考え、入口に9言語で「こんにちは」にあたる挨拶を書いたポスターを掲示して、親子を出迎えています。(図書館／神奈川県藤沢市)



7 障がいのある対象者への対応を考える

ブックスタートの対象となる赤ちゃんやその保護者の中には、視覚や聴覚に障がいのある人もいます。そうした親子にも、絵本を開く楽しいひとときを伝えるために、一人ひとりのニーズに合った対応を考えます。

障がいのある人も絵本のひとときを楽しめるように

障がいの有無に関わらず、絵本を開くひとときは、どの親子にとっても楽しくあたたかい時間になり得ます。なぜなら、読む側の保護者に障がいがある場合でも、読んでもらう側の赤ちゃんに障がいがある場合でも、様々な感じ方で心地よさや愛情を分かち合えるひとときになるからです。また、視覚や聴覚に障がいのある保護者の中には、絵本自体に工夫を施したり、読み方を工夫することで、赤ちゃん和絵本のひとときを楽しんでいる人が多くいます。

赤ちゃん、保護者の障がいの状態やコミュニケーション手段、保護者の心理状態や親子が置かれている状況は様々です。ブックスタートでの対応を考える際には、あらゆる視点から親子を受け入れるための配慮をする必要があります。



悲しい思いをしたブックスタート

家庭訪問でブックスタートを受けました。訪問員の方は、私の子どもに視覚障がいがあることを知って驚いたようで、「読むのはやめておきましょうね」と、読みきかせや説明がないまま絵本を渡され、悲しい思いをしました。訪問する人が、視覚に障がいのある赤ちゃんがブックスタートを受けるケースもあることや、そうした赤ちゃんも絵本を楽しめることを理解した上で対応してくれていたら、印象も違っていたのではないかと思います。(E市)



手渡した絵本で生まれた親子の心の通い合い

家庭訪問でブックスタートを実施していますが、以前、視覚と聴覚に障がいがあり、酸素吸入器を付けている赤ちゃんの家を訪ねたことがありました。まずは「ちょっと持ってみる？」と言って、保護者に絵本を渡してみました。すると保護者は、早速赤ちゃんに見せてあげたのです。その時、赤ちゃんもお母さんが何かをしている気配はわかっているようだったので、「赤ちゃん、きっと喜んでいると思うよ。お母さん、読んでみますか？」と声をかけました。絵本を読み終えた保護者が「これがこの子の初めての絵本です。これからもずっと使います」と言ってくださった時には、本当に嬉しく思いました。絵本を見せた時の赤ちゃん和保護者の間に生まれた心の通い合いは、何にも代えがたいものがあると感じました。(子育て・家庭支援課／兵庫県川西市)

絵本を用意する

ニーズに合った絵本を選ぶ

赤ちゃん絵本には、簡単な言葉の繰り返しやシンプルな絵など、誰もが楽しめるユニバーサルな力があります。そうした赤ちゃん絵本の中から、見やすさや内容など、親子のニーズに合う絵本を選び、手渡すことで、絵本の時間がより楽しいものになります。また、障がいのある人が楽しめるように配慮して作られた市販の絵本を活用することもできます。

絵本に工夫を施す

保護者に障がいがある場合、手渡す絵本に工夫を施す必要があるケースもあります。例えば全盲の場合、平面の紙に印刷されただけの絵本は読むことができませんが、点字を付けた絵本であれば、自分で読むことができる人もいます。このようなケースでは、点訳ボランティアの協力を得て点字付き絵本を準備するなど、ボランティアとの連携によって、対象者のニーズに合わせた対応がしやすくなります。



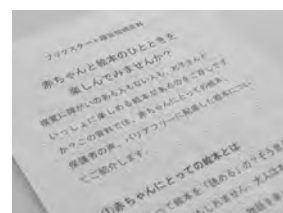
点字を付けた絵本を準備

ボランティア団体の協力を得て、文字のところに点字を付けた絵本を用意し、視覚に障がいのある保護者に紹介できるようにしています。また、一般の利用者に点字付き絵本を知ってもらうために、図書館の蔵書としても製作して、閲覧できるようにしています。(図書館／茨城県取手市)

<NPOブックスタートによるサポートと提供物>

- てんじつき さわるえほん※
「ブックスタート赤ちゃん絵本」の一部タイトルについて、市販の「てんじつき さわるえほん」が購入できます。
- てんやく絵本※
NPOブックスタートから購入した絵本を、「てんやく絵本」に交換できます。
- 点字／拡大文字版付き アドバイス ブックレット
「赤ちゃんといっしょに はじめまして 絵本」
「赤ちゃん絵本を開く時間の楽しさ」を伝える冊子。本文およびイラストについての説明文を、点字と拡大文字で表記した資料がセットになっています。
※ 詳しくはP58および「ブックスタート購入ガイド」をご確認ください。
- 点字／拡大文字版 趣旨説明資料
活動の趣旨を点字と拡大文字で表記した資料。保護者の声や、バリアフリーに配慮した絵本に関する情報も紹介しています。
- 別冊 ハンドブック「障がいのある方への対応を考えるために」
視覚・聴覚に障がいのある赤ちゃんや保護者に絵本を開くきっかけを届けるために、ブックスタートの関係者が配慮すべき点について、各地から収集した事例や情報を紹介しています。

※ 詳しくは「ブックスタート購入ガイド」をご確認ください。



点字／拡大文字版
趣旨説明資料



障がいのある方への対応を
考えるために
(A4/52 ページ)

8 ブックスタート・パックの内容を決める

親子で絵本を開く、具体的なきっかけとなるブックスタート・パック。各地域では、様々な方法や観点で絵本を選んだり、資料を作成したりしています。

ブックスタート・パックとは

ブックスタート・パックの中には、絵本を介した心ふれあうひとときを届けるため、その具体的なきっかけとして家庭でもすぐに読めるように、絵本が必ず1冊以上入ります。その他、趣旨を伝える冊子、バッグ、各地域で作成した資料など、パックの内容は自治体によって異なります。

※ NPOブックスタートから絵本やバッグなどを購入できます。詳しくは「ブックスタート購入ガイド」をご確認ください。

<ブックスタート・パックの例>



絵本

手渡す絵本の冊数やタイトルは地域によって様々ですが、自治体の公共事業の中で配付されるものであるからこそ、選択過程や理由を明らかにしておく必要があります。また、それを関係者どうしで共有しておくこと、保護者に絵本の説明がしやすくなります。

絵本にはそれぞれに魅力や特徴、おおよその対象月齢があります。候補となる絵本すべてを、実際に手に取り読んでみることで、親子に手渡したい絵本が見つかるのではないのでしょうか。

※ NPOブックスタートでは、「ブックスタート赤ちゃん絵本」(30タイトル)を提供しています。詳しくはP56をご確認ください。なお、地域での選考に際し、見本の貸し出しも行っています。

絵本選択の方法例

- 図書館員主体で決める
本に関する専門知識を持つ図書館員が集まり、選択します。
- 関係者全員で決める
図書館員や、保健師、保育士、ボランティアなど、活動に関わる人全員が集まり、様々な知識や経験を持ち寄って選択します。
- 保育園に勤務する保育士の意見を取り入れる
保育園で日々、乳幼児と絵本を開く機会を持っている保育士から意見を聞き、赤ちゃんから支持されている絵本の情報を集めます。
- 保護者の意見を取り入れる
子育て中の保護者から意見を聞き、対象者のニーズを把握します。



ブックスタート赤ちゃん絵本



様々な分野の人が集まり
絵本を選択
(宮崎県小林市)

自治体における絵本選択の考慮ポイント例

- 定評のあるもの／新しいもの
 - ・ロングセラーや赤ちゃん絵本として定評がある。
 - ・出版年が比較的新しく、家庭での保有率が低そうである。
- 今楽しめるもの／長く楽しめるもの
 - ・対象月齢の赤ちゃんの反応が引き出しやすいことを重視。
 - ・月齢が低くても楽しめるものと、少し大きくなっても楽しめるものを組み合わせる。
- 絵本の仕様
 - ・赤ちゃんが扱いやすい大きさ、形。
 - ・複数冊手渡す場合、1冊は厚紙仕様にする。
- 内容
 - ・健診でコミュニケーションの大切さを伝えているので、親子で実践しやすい内容。
 - ・絵本になじみのない保護者にとっても親しみやすく、読みやすい。
 - ・典型的な家族像(両親のそろった家庭など)が想起されない。
 - ・母子だけでなく、父子の絆も深められる。
 - ・複数冊手渡す場合、テーマが異なるものを組み合わせる。

事例

様々な立場からの意見を収集

図書館員、保健師、ボランティア、文庫関係者、母子保健推進員、乳幼児学級に参加している保護者が集まって、「ブックスタート赤ちゃん絵本」すべてを手に取り、それぞれの観点から意見を申し出しました。また、子育て支援関連のイベントに図書館のブースを出し、絵本を展示。来場者からも意見を聞き、これらの意見から総合的に判断して、手渡す絵本を決定しました。(図書館／岐阜県美濃加茂市)

事例

保育園に絵本を貸し出し、赤ちゃんの反応から候補を絞り込む

図書館が「ブックスタート赤ちゃん絵本」の中から数冊を選び市立保育園へ貸し出して、保育士が赤ちゃんに読みます。赤ちゃんの反応や保育士の感想などをアンケートに記入してもらい、図書館がさらに候補を絞り込みます。最終決定は、ブックスタートに携わる3つの課の職員とボランティアの投票により行います。(図書館／神奈川県平塚市)

事例

親子への読みきかせを担当するスタッフの意見を大切に

赤ちゃん絵本に関する講演会と併せて、ボランティアと選定会を行います。皆で意見を出し合った後に投票。その結果を参考にしながら、最終的に図書館員が決定します。実際に読みきかせをするボランティア自身が読みやすい本や、読んであげたいと思う本を選ぶことを大切にしています。また、図書館だけで選ぶと、どうしても偏りが出てしまうことがあります。図書館員がよいと思うものと、普段から実践で赤ちゃんに読んでいるボランティアがよいと思うものが、異なることもあるのです。(図書館／富山県小矢部市)

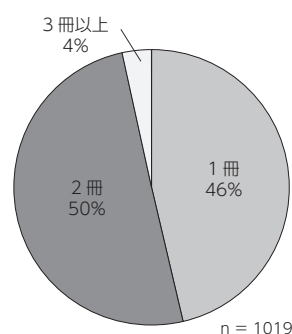
手渡す絵本は「最初のきっかけ」

ブックスタートは「よい絵本」を手渡すことや、「保護者の好きな絵本」を選んでもらうことが目的ではありません。ブックスタートで手渡される絵本は、各家庭で赤ちゃんに絵本を開く時間が持たれるための「最初のきっかけ」です。そこから生まれた対象者の絵本への興味や関心に応えるため、多くの地域では絵本リストを作成し、絵本と一緒に手渡しています。

手渡す絵本の冊数・タイトル

手渡す絵本の冊数は地域によって異なります。対象者全員に同じタイトルの絵本を手渡す地域もあれば、読んだ時の我が子の様子を見てもらい、保護者が複数冊の中から選択する地域もあります。また、上の子と重ならないよう、差し替えの絵本を用意する場合もあります。差し替えを希望する保護者がいる一方、「下の子のための絵本として、同じものがほしい」という保護者もいます。

<絵本の冊数>



実施状況確認シートをもとに集計
(2018年3月末現在)



事例 第1子用と第2子以降用のパックを用意

第1子用、第2子以降用のパックを用意しています。第1子にはファーストブックとしてぜひ手渡したいものを、第2子以降には、上の子と内容が重ならないように配慮しつつ、定評のある絵本を選んでいきます。(図書館／静岡県三島市)



静岡県三島市



事例 1冊は全員同じタイトルを、もう1冊は親子が選択

2冊配付するうち、1冊は基本的に全員同じタイトルの絵本を、もう1冊は3タイトルの中から親子を選んでもらっています。全員に手渡す絵本は、ぜひ読んでもらいたいものにしています。選択する3タイトルは、動物を扱ったものやストーリーのあるものなど、絵本のテーマや雰囲気異なるものをそろえています。(図書館／神奈川県茅ヶ崎市)



神奈川県茅ヶ崎市

ブックスタート赤ちゃん絵本

NPO ブックスタートでは、各地のブックスタートで赤ちゃんに手渡される絵本の候補となる「ブックスタート赤ちゃん絵本」(30タイトル)を提供しています。

絵本は、3年に一度開催される「絵本選考会議」で選出されます。赤ちゃんに絵本との関係について豊富な知識と経験を有する5名の委員(乳幼児発達の専門家、図書館司書、保育士など)が、選考基準に基づき、公平・中立的な立場で意見を交わし合い、選考を行います。

ブックスタート赤ちゃん絵本の選考基準

赤ちゃんが保護者と豊かな言葉を交わし、気持ちを伝えながら楽しい時間を過ごすことで、心健やかに成長することを応援する絵本のうち、次のいずれかにあてはまるものとする。

- (1) 年月を経て赤ちゃんから支持され続けてきた絵本。
- (2) 今後、赤ちゃんから支持を受ける可能性が高い絵本。

- ※ 選考は、委員の独立した判断によって行われ、出版社やNPOブックスタートの意向が反映されることはありません。
- ※ 日本国内でおよそ満2歳児以下を対象に出版流通している絵本を対象に、選考を行っています。NPOブックスタートでは、該当する絵本の書誌情報を「赤ちゃん絵本データベース」として管理。また、資料として収集した絵本を「赤ちゃん絵本ライブラリー」に所蔵しています。
- ※ 選出された絵本は、赤ちゃんがなめる可能性のある外側のコーティングについて、外部の検査機関で食品衛生法に基づいた検査を行っています。紙やインクなどについては、出版社を通じて安全性を確認しています。



NPO ブックスタートにある「赤ちゃん絵本ライブラリー」

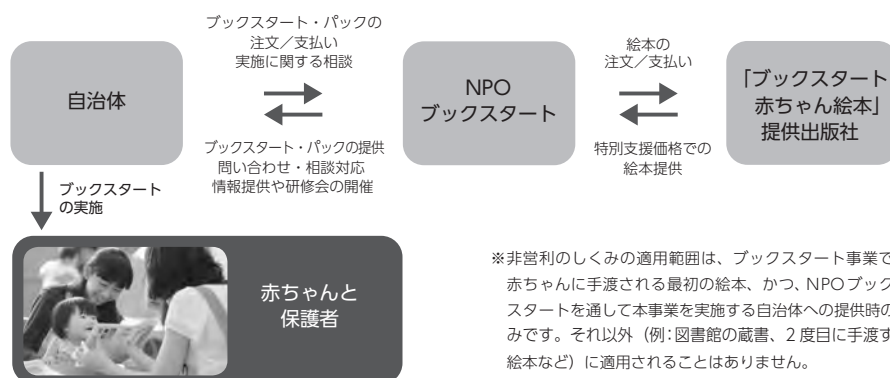
特別な価格と流通による絵本の提供 ～非営利のしくみ

NPO ブックスタートでは、各地のブックスタートで赤ちゃんに手渡される絵本の候補となる「ブックスタート赤ちゃん絵本」(30タイトル)を、特別なしくみを通じて自治体に提供しています。「ブックスタート赤ちゃん絵本」は、提供出版社に得失のない「特別支援価格」で、かつ通常の書籍流通とは異なり、出版取次会社や書店を経由せず、出版社から直接NPOブックスタートに提供されます。そしてブックスタート事業で親子に手渡す絵本として、自治体に廉価で提供されます。ブックスタートのための、この一連の流れを「非営利のしくみ」と呼んでいます。

このしくみは、日本にブックスタートが紹介された2000年の「子ども読書年」の際に、出版界(出版社・出版取次会社・書店)が、この活動を応援することを確認して行った「ブックスタート・パックの絵本提供のしくみからは直接的な利益を得ない」という合意に基づき、多くの出版関連各社の理解と協力に支えられ、運用されています。

NPOブックスタートは、この非営利のしくみによって、絵本などのブックスタート・パックを自治体に提供し、その販売収益により、財政的にも自立したかたちで組織を運営しています。そして、各種資料の発行や研修会の開催など様々な取り組みを行い、各地のブックスタート事業を支援しています。つまり、各自治体が非営利のしくみを活用して事業を行うことは、全国各地のブックスタート事業の普及と充実につながっているのです。

<対象者に絵本を届けるまでの流れ>



アドバイス ブックレット 「赤ちゃんといっしょに はじめまして 絵本」

* NPOブックスタート
から購入可

企画・発行:NPOブックスタート 構成・絵:スギヤマカナヨ サイズ:A5 148×210mm



▶ 赤ちゃん和絵本をひらく時間の楽しさを視覚的に伝える

保護者の中には、絵本に関心のある人もそうでない人もいます。アドバイスブックレットは、家庭で絵本が登場する様々な場面を、シンプルな絵と短くわかりやすい文章で描いています。関心の程度に関わらず、すべての保護者が、赤ちゃん和絵本を開く時間の楽しさを、視覚的に感じられるよう工夫しました。



▶ 家族みんなに活動の趣旨を伝えられる

赤ちゃんのお世話をするのはお母さんだけではありません。お父さんやおじいちゃん、おばあちゃんなどの他の家族にも、赤ちゃん和絵本を開くひとときの楽しさを伝えることが大切です。ブックレットには、赤ちゃんが色々な場面和家族和絵本を開いている姿が描かれています。また裏表紙には、ブックスタートの趣旨や活動の概要も掲載しています。「ご家族にも、ぜひこの冊子を読んでもらってください。お母さんだけでなく、家族みんなで楽しんでくださいね」というひとことを添えて、保護者に手渡すことも有効です。

多言語版

外国語を母語とする保護者へ活動の趣旨を伝えられるよう、ブックレットを8言語に翻訳。日本語を併記しています。

※ 英語／中国語／韓国語／ポルトガル語／タガログ語／スペイン語／タイ語／ベトナム語



外国語と日本語を併記

点字／拡大文字版付き

本文およびイラストについての説明文を、点字と拡大文字にした資料がセットになったブックレットです。視覚に障がいのある保護者へ、活動の趣旨を伝えることができます。



点字／拡大文字版があることを伝える点字シートを貼付



本文とイラストの説明文を点字と拡大文字で表記した資料

<NPOブックスタートによるサポート>

■ 解説版 アドバイス ブックレット

事業関係者向けに、ブックレットの各ページを詳しく説明。対象者へ話す際のポイントや、専門家からのアドバイスを掲載しています。



解説版 アドバイス ブックレット (A4/16 ページ)

事例

スタッフ用に、ブックレットの見本と解説版を配付

保護者は健診で配られるたくさんの資料に目を通さなければなりません、ブックレットには要点が端的にまとめられているので、保護者も読みやすいと思います。解説版は、保護者から質問を受けた際にも参考になるため、ボランティアが自由に閲覧できるようにして、活動の趣旨を共有しています。(子ども家庭支援センター／東京都立川市)

サイズ:330×350mm 持ち手の長さ:500mm

ブックスタートのロゴマークをプリント。絵本をバックに入れて手渡すことで、ブックスタート・バック「赤ちゃん、すくすく幸せに育ってね」というあたたかな思いのこもった贈り物だというメッセージ自然と伝わります。また各地では、図書館に絵本借りに来る時に「図書館バッグ」として持参する子どもも多いようです。まちでバッグを見かけた事業関係者が、保護者に声をかけ、話をする機会が増えるという声も聞かれます。

内ポケットに図書館カードを入れたり、名前を書くことができます。

底部のマチ。絵本もたくさん入ります。



赤ちゃんを抱っこして来館した保護者は、図書館カードを荷物の中にしまうことも大変です。そんな時には「バッグのポケットにカードを入れておきますね」とひとこと添えて、バッグごと借りた本を渡すことができます。

図書館では、毎日のようにバッグを見かけます。時には、大きくなった中学生が、バッグを持って本を借りに来ることも。バッグを手渡すことにより、親子と図書館がつながることもできます。これは、図書館がブックスタートを実施する意義を説明する材料にもなっていると思います。(図書館／滋賀県長浜市)



Small label at the bottom left of the box:

Small image of a person (possibly a child) and text.



Bookstart

語りかける「愛情」で、
赤ちゃんの幸せ広げたい。

ブックスタートは、
すべての赤ちゃんのまわりで
楽しくあたためられるひとときが持たれることを願い
一人ひとりの赤ちゃんに、絵本を手渡す活動です。
地区町村の事業として全国に広がっています。

絵本リスト

* 地域で作成

ブックスタートで手渡す絵本以外にも、たくさんの楽しい絵本があることを伝える大切な資料です。絵本の魅力を十分に伝えるために、簡単な紹介文を載せたり、カラーで作成する地域もあります。また、親子が図書館に足を運びきっかけになるよう、図書館の地図や催しの案内を併せて掲載する地域もあります。

事例

様々な立場の人の紹介文を掲載

保護者、ボランティア、学校の先生、保育士、歯科衛生士など、様々な立場の人が、実際に赤ちゃんを楽しんだ様子とともに絵本を紹介しています。(図書室／北海道蘭越町)



宝箱をひらくような絵本リスト

B4の紙を6つに折り畳み、思わず開きたくなるような形式に。事業の趣旨やブックスタート会場に展示している絵本も掲載しています。(図書館／兵庫県朝来市)



図書館案内・利用登録用紙

* 地域で作成

0歳の赤ちゃんも図書館利用者として、自分のカードで本を借りられることを伝えます。ブックスタート対象者専用の用紙をつくり、一般の登録用紙と区別することで、ブックスタートがきっかけとなった図書館利用登録者がどのくらいいるかを計る地域もあります。赤ちゃんの来館を歓迎していることが伝わるような図書館案内を作成している地域もあります。



図書館利用登録用紙
(長野県辰野町)

事例

図書館の子育て支援を写真で紹介

乳幼児向けの絵本コーナー、おはなし会の様子、赤ちゃん向けの設備などをまとめ、「図書館から子育て支援のお知らせ」として紹介しています。(図書館／北海道根室市)



おはなし会などの案内

* 地域で作成

おはなし会などの赤ちゃんに参加できる催しが、いつ、どこで行われているかを伝えます。一組一組に直接声をかけて案内するため、おはなし会への参加者の増加につながります。

事例

スタンプカードをおはなし会に参加するきっかけに

図書館で行っているおはなし会では、赤ちゃんへの読みきかせに慣れているブックスタートのボランティアが会を進行。保護者どうしの交流の時間も設けるなど、赤ちゃん連れでも気軽に参加できる雰囲気づくりを心がけています。

多くの親子に関心を持ってもらえるよう、参加した時にスタンプを押すカードを作成し、バックに入れて手渡しています。(図書館／茨城県牛久市)



子育て支援情報

* 地域で作成

育児の悩みや不安がある場合に相談できる機関や、赤ちゃんと一緒に出かけられる場所を紹介し、地域全体で子育てを応援していることを伝えます。

事例

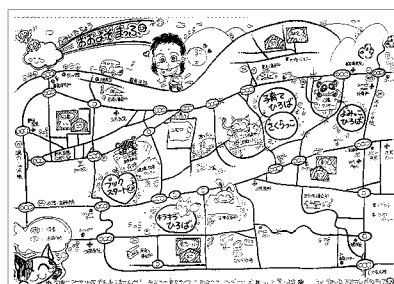
市内各所での催しを集約

保育園・幼稚園の施設開放や、図書館・保健センター・児童館が行っている催しを、子育て支援カレンダーにまとめて配付しています。(図書館／山口県岩国市)



子育て支援施設マップを作成

転入してきた保護者から、施設の場所がわからないという声を受けて、親子が集える様々な場所を示した「上板町おおよそまっぷ」を作成し、配付しています。(福祉保健課／徳島県上板町)



9 スタッフ用アイテムを用意する

保護者が安心して過ごせるように、またスタッフも毎回楽しく活動ができるように、ブックスタート会場で役立つものを検討し、必要に応じて準備します。

エプロン

* NPOブックスタートから購入可

サイズ:フリー 生地:綿

水色を基調としたエプロンに、ラッコが大きく描かれています。ブックスタートの関係者がひと目でわかり、会場が華やかになります。



福岡県大木町

事例

「これから始まるぞ」と気持ちを切り替えて参加できる

かわいらしく目立つデザインなので、健診会場の中でもブックスタートのスタッフであることがすぐにわかります。こちらの立場を明らかにできるため、保護者からもすぐに受け入れてもらえ、活動がしやすいです。また、このエプロンをつけると、「これから始めるぞ」と気持ちを切り替えて取り組むことができます。(ボランティア／福岡県大木町)

名札

* 地域で作成

たくさんの人が集まる会場では、名札を付け立場を明らかにすることで、保護者に安心して話を聞いてもらうことができます。赤ちゃんを抱っこする時に、名札が顔にあたっても危なくないよう、やわらかい素材を使って手づくりする地域もあります。また、スタッフ研修を受講していることを名札に明記している地域もあります。

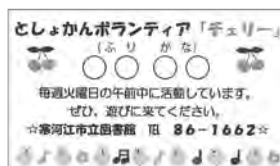


大阪府泉南市

事例

名刺を手渡して出会いをつなげる

ブックスタートで出会った親子との関わりを、その場限りにするのは惜しいという思いから、ボランティアのアイデアで名刺を作成。親子との別れ際に、各自の名前が書かれた名刺をポケットから取り出し、「図書館でも活動していますので、ぜひ遊びに来てくださいね」と言葉を添えて手渡しています。(図書館／山形県寒河江市)



山形県寒河江市

スタンプ

* NPOブックスタートから購入可

パックを手渡した際に母子手帳に押印することで、ブックスタートを受けているかどうかを確認できます。

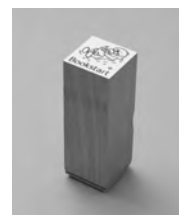
<印面>



<浸透印>



<ゴム印>



インク色:青
印面:20×20mm(浸透印 大・ゴム印)
12×12mm(浸透印 小)

事例

絵本をもらったことを思い出すきっかけに

ブックスタート会場で、母子手帳にラッコのスタンプを押印しています。その後、保護者がそのページを見た時に、「あの時に絵本をもらったな」と振り返ってくれたら嬉しいです。(図書館／福島県泉崎村)



埼玉県鴻巣市

赤ちゃんをあやすアイテム

* 地域で作成

赤ちゃんをあやしたり、絵本を開く前に親子の緊張をほぐしたりするために、人形や手あそび用の布などを用意している地域もあります。

事例

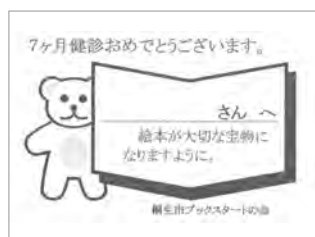
わらべうたを楽しんで

画用紙で手づくりした子ブタを揺らしながら、「ぶーぶーぶー たしかにきこえる ぶたのこえ」というわらべうたを歌っています。家の中にある身近なものを使って、簡単に赤ちゃんともコミュニケーションが取れることを伝えています。(図書館／栃木県野木町)



「おめでとう」お名前カード

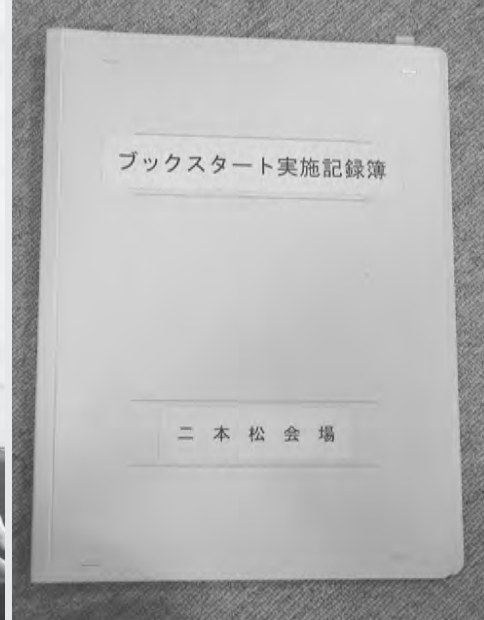
赤ちゃんの名前を聞き返すのが申し訳ないという、ボランティアの声から発案された「7か月児健診おめでとうございます」カード。受付で赤ちゃんの名前を記入し、それを見ながら「○○ちゃん、こんにちは」と赤ちゃんを出迎えます。最後にこのカードも手渡し、あたたかなメッセージを伝えています。(図書館／群馬県桐生市)





第4章

事業を振り返る



事業を計画し、様々な準備を整え、実践を積み重ねたところで次にすべきことは、活動の振り返りです。この事業がどのような成果をもたらしているのか、見直すべきことはないかを確認すること。さらには、活動の中で得られた貴重な経験を多くの人と共有することです。定期的に活動を振り返ることは、事業の改善にきつとつながります。

1 事業評価をまとめる

事業を開始した後は、年度ごとに評価をまとめ、次年度の予算獲得や活動のさらなる充実につながります。とはいえ、ブックスタートは数値だけで効果を表せる活動ではありません。事業評価の方法や収集したデータの分析、評価結果の報告は、どのようにしたらよいのでしょうか。

事業評価の目的を明確にする

まずは、何のために評価を行うのかを明らかにします。事業を見直し、改善を図ることを目的に評価を行うこともあれば、継続的に予算を確保するために、上層部や財政課に効果を報告したり、対象者や市民の理解を得ることが目的の場合もあります。評価結果の活用の仕方を明確にすることは、具体的な評価方法を検討する上で重要です。

事業評価の視点例

- 予算確保や事業への理解を得ることを目的とした場合
 - ・ 事業に直接的に関わること：
家庭で読みきかせを行う人や時間は増えているか／親子やブックスタートに対する関係者の気持ちに変化はあったか／予算額に対してもたらされた結果が妥当か
 - ・ 事業に間接的に関わること：
図書館利用者や貸し出し数は増加しているか／子育て支援センターの利用者数は増加しているか／未受診者への対応がよりスムーズになっているか／絵本・子育て支援関連事業により変化はもたらされているか
- 事業の見直しや改善を目的とした場合
 - ・ 実施方法：
事業計画に沿って実施できているか／実施機会は適切か／対象者へ周知できているか／パックの手渡し方は適切か／すべての対象者にパックを手渡せているか
 - ・ 運営体制：
事業を行うための連携体制や予算は十分か／スタッフの人数やスキルは適切か／関係者間の情報共有は十分に行われているか

評価方法を考える

評価の目的に応じて、事業のどこに焦点を当て、何を明らかにすればよいかを考え、評価対象や項目を設定します。その上で、どのようなデータを、どのように収集するかを検討します。

評価対象と項目の例

- 予算確保のために事業の効果を示すことが目的
 - ・ 保護者を対象：
家庭での読みきかせの頻度、手渡した絵本の活用状況、健診の満足度、子育て支援施設の利用につながったか、子育ての課題解決に寄与したかなどの項目
 - ・ 関係者を対象：
事業実施後の変化（健診受診率、絵本の貸し出し冊数、子育て支援施設の来館者数）などの項目
- 事業の見直しのために事業の効果や実施方法を評価することが目的
 - ・ 保護者を対象：
事業の趣旨に対する理解の程度、読みきかせやパックの内容への感想などの項目
 - ・ 関係者を対象：
事業に対する思い、日頃から感じている課題などの項目

データの種類

評価で使うデータには、定量的(数値化されたもの)と、定性的(文章化されたものなど)があります。

■ 定量的なもの

例：パックの配付率／健診受診率／図書館利用登録者数・貸し出し冊数／フォローアップ活動への参加者数

■ 定性的なもの

例：対象者の事業に対する感想や意見／家庭での読みきかせの様子／事業関係者の意見／市民の声／フォローアップ活動の充実

データの集め方

どのようなデータを集めるかにより、収集方法も異なります。

■ 各種統計データを集める

関係機関が把握している統計を集めることで、定量的なデータを得ることができます。

■ 活動記録(日報など)から収集する

実施会場での対象者の発言や様子、親子とのやり取り事例、関係者の思いなど、数値だけでは見えてこない事業の成果を集めることができます。

■ アンケート調査

対象者の満足度やニーズを数値化したり、ボランティアからもアンケートを取ることで、事業に関わる市民の声を集めることができます。自由記述欄からも様々な意見を得ることができます。

■ インタビュー・座談会

対象者やボランティアと直接話をするすることで、事業への率直な意見を得たり、事務局担当者が聞いてみたいことを、詳しく質問できます。

データを集計・分析する

評価方法が決まったら、データを収集し、集計を行います。さらに、集計結果をもとにデータを分析することで、事業の効果や課題を明確にします。

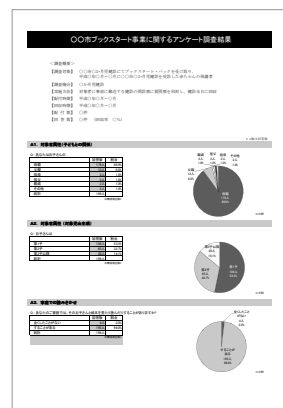
➡ NPOブックスタートでは、アンケート書式案および集計フォーム(Excel)を用意しています。



アンケートの回収率を上げるための工夫

ブックスタートを実施した後、保護者にアンケートの記入を依頼します。その際、「事業の継続にもつながるので、ぜひ協力してくださいね」と言葉を添えて用紙を手渡しています。また、用紙に記入する時間がない人のために、Web サイトでも回答できるようにして、回収率を上げる工夫をしています。

アンケート結果は、連携機関にも共有。事業成果をアンケート結果で客観的に示す方が、この活動への理解が得られやすいです。(図書館／宮崎県小林市)



アンケート集計フォーム(Excel)

事例

すべての健診受診者からアンケートを回収するために

ブックスタートは健診の前半の項目として実施しています。読みきかせが終わり、次の項目に移る前に、アンケート用紙を保護者に配付し、健診の合間に記入してもらいます。そして最後の保健師による個別相談の時に、アンケート用紙を受け取った後でパックを手渡します。外国語を母語とする保護者も多いため、英語、ポルトガル語、スペイン語のアンケート用紙も用意し、すべての対象者の意見を正確に把握できるようにしています。(図書館／群馬県大泉町)



英語・ポルトガル語・
スペイン語のアンケート用紙
(群馬県大泉町)

評価結果をまとめ、活用する

評価結果を年次報告書などにまとめ、関係者どうしで共有し、それぞれの事業への思いを深めたり、新たな学びを得たりします。さらに、直接関わりのない他部署の職員、市民にも評価内容を公表し、活動報告をすることは、ブックスタートに共感する人を増やし、事業の継続にもつながります。



年次報告書
(福岡県飯塚市)

事例

事業の成果を多様な視点からまとめる

豊中市子ども読書活動推進計画第1期および第2期実施計画に関し、評価報告書を作成。その中に保護者へのアンケート調査結果を盛り込みました。

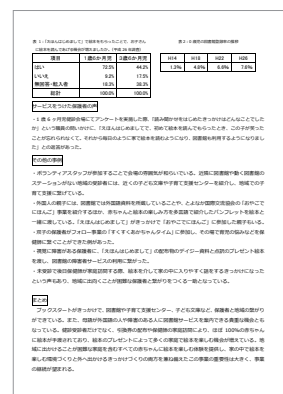
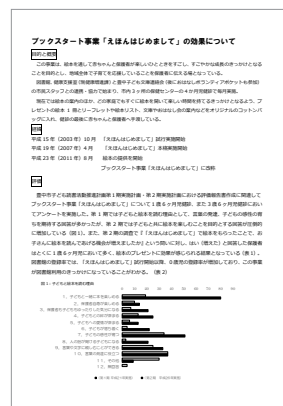
事業の効果を検証するため、調査では、絵本を介した親子の楽しい時間が、家庭で浸透しているかを測る項目を設定。読みきかせのみを行っていた第1期では、子どもと本を読む理由として、言葉の発達などを期待する回答が多かったのですが、絵本のプレゼントを始めた第2期では、子どもとともに絵本を楽しむことを目的とする回答が圧倒的に増加していました。また、第2期では、絵本をもらったことで子どもに絵本を読んであげる機会が増えたと回答した保護者が多く、絵本を手渡す効果が感じられました。

報告書には、そうしたことを記載するとともに、その他の視点も取り入れ、事業の重要性を訴えました。

<報告書に掲載した内容>

- 子どもと絵本を読む理由、読む機会が増えたか否か、図書館登録率の推移
- ブックスタートを受けた保護者からの感想
- 外国人や双生児の保護者、障がい者、未受診者への対応事例 など

(図書館／大阪府豊中市)



効果をまとめた資料
(大阪府豊中市)

2 情報・経験を共有する

事業関係者はそれぞれに、活動の中で様々な経験をしているはず。それらを関係者どうしで共有し、その後の実践に活かします。また、多くの自治体職員に活動への理解を広げることは、事業を継続するための力になります。

蓄積された情報や経験を活かすために

活動を通じて得た知識や経験は、実践に役立つ貴重な情報です。それを関係者どうしで共有することは、全員のスキルアップや意識の向上につながります。

また、事務局担当者が異動になった時、その担当者にしかわからないことが多いと、活動に大きな影響を与えてしまいます。日頃からスタッフどうしが顔を合わせて話し合い、記録した情報を蓄積し、共有していくことは、事業を長期にわたって安定的に運営するためにも重要です。

情報共有の方法例

■ ブックスタート当日のミーティング

毎回、ブックスタートを実施する前後の時間にミーティングを行います。開始前には、当日の対象者数や注意事項、近々行われる親子向けイベントの日程や内容などを確認します。終了後には、その日に会った赤ちゃんや保護者の様子を話し合ったり、スタッフの対応についてよかった点・改善できる点などの意見を出し合ったりします。

■ 記録をつける

ミーティングで話し合われたことや、パックの配付数などを日誌や報告書に記録します。それらを回覧することで、当日参加していなかったスタッフにも活動の様子を知らせることができます。在庫管理やパックを手渡せなかった対象者の把握にも役立ちます。

■ 定期的な会議・交流会

関係者が出席する会議を定期的に行います。スタッフ全員を集めた交流会を開催し、普段は一緒に活動する機会がない人どうしが話し合える場を設けることも大切です。



日誌（上）に活動の様子を記録する図書館員（下）
（滋賀県長浜市）

事例

日報の内容を全員で共有

年に一度、関係者が集まる研修会を開催。各会場での経験を共有できるよう、ブックスタートの日報に書かれたボランティアのコメントを、配付資料に転載しました。日報には、親子の対応に戸惑ってしまった場面に関するコメントがあったため、接し方について図書館からのアドバイスも追記して紹介。日頃の活動に関するグループ討議も行い、事業の質を高めています。（図書館／静岡県静岡市）

事例

事業の見直しと改善のための検討委員会を開催

2か月に一度、連携機関やボランティア団体の代表など20名で検討委員会を開催。現場から出された反省点や気づいたことを共有し、事業の見直しと改善につなげています。また、市内の子育てに関わる情報を交換したり、異動などで新しく加わったメンバーが活動の意味を理解したりする機会にもなっています。会議に出席できなかったメンバーには議事録を作成して、必ず内容を伝えていきます。（図書館／佐賀県武雄市）



事業報告とともにボランティアの声と職員のアドバイスを追記
（静岡県静岡市）

行政内に理解者を増やす

一緒に活動している関係機関の職員はもちろん、首長や組織の上層部、他部署から異動してきた職員、さらには事業に直接関わりのない職員にも、活動の意義を知ってもらえるよう働きかけることは大切です。行政内に理解者を増やすことは、継続的に予算を確保する上で大きな力となります。

理解を広げる方法の例

■ ブックスタート会場の視察機会を設定

関係機関の担当者やその上司が交代した際は、ブックスタート会場を視察してもらうことが、事業への理解のために効果的です。なぜなら、赤ちゃんや保護者の笑顔やスタッフの生き生きとした姿を間近に見ることは、事業の意義を実感する何よりの機会になるからです。さらに、首長の現場視察事業の中にブックスタートを盛り込むことで、地域住民であるボランティアからの声を首長に直接届け、事業の必要性を訴える地域もあります。

■ 各機関の担当者が会場運営に関わる

事務局担当者だけでなく、担当課の他の職員、さらには関係各課の担当者がローテーションを組んで会場運営に関わり、親子に接します。事業に対して当事者意識を持つ職員が増えるだけでなく、各課の担当者が異動した時にも、スムーズに事業を引き継ぐことができます。

■ 上層部が参加する会議を開催する

関係機関のトップが参加する会議を開き、事業の意義や成果、今後の方向性などを報告します。予算折衝に直接関わる上層部に活動を知ってもらうことは、事業を継続する上で大変重要です。



会場を視察する市長
(新潟県新潟市)

事例

本庁の理解が深まることを意識して

毎年、市長や教育長に会場を見学してもらいます。それはボランティアのモチベーションアップにつながるだけでなく、自治体のトップに実際の活動を見てもらうことで、事業の意義を理解してほしいと考えているからです。また、市の職員の中に、一人でも多くの理解者がいることも重要です。そのため、2～3年で異動になる行政職の図書館員にも、図書館の役割を深く理解してもらうことを意識して、日々の業務を行っています。(図書館／福岡県筑後市)

事例

行政の上層部とボランティアが直接話す機会を設定

副町長、教育長、関係部課長、図書館長、ボランティアの代表などが参加して、ブックスタートのための運営会議を、年に2回開催。ボランティアが活動しやすいよう、関係機関と一緒に話し合ったり、行政の上層部とボランティアが直接話したりしながら、この事業に対する意識を常に高めることが必要です。こうした取り組みは、財源を確保していく上でとても意味があるとともに、地域住民の声を行政に直接届けられるなど、ボランティアのさらなる意欲向上にもつながっています。(図書館／栃木県野木町)

事例

写真を多用した活動報告書を作成

会場設営、打ち合わせ、絵本の読みきかせ、待ち合いコーナーの様子など、当日の流れに合わせて活動報告書を作成。よりインパクトがあるように、写真を大きく配置しました。報告書は、関係機関や町長、教育長に配付し、事業への理解を求めました。さらに、市民だけでなく行政職員へのPRを目的に、町の広報紙に特集を掲載しました。(図書館／埼玉県三芳町)



場面ごとに写真とコメントで説明を加えた活動報告書

事例

表彰の機会を活かして市民との協働をアピール

ブックスタート・ボランティアが市の生涯学習功労者として表彰されるよう、図書館から推薦しました。目的は、ボランティアに感謝の気持ちを伝えるだけでなく、ブックスタートが市民との協働で行われていることを、行政内に周知すること。実際に、市長が出席する表彰式で、ボランティアから直接事業の必要性を伝えることができました。それは、予算を確保する上でも大きな力になると思います。(図書館／静岡県三島市)



授賞式の写真と表彰状を
図書館に掲示
(静岡県三島市)

事例

職員研修でブックスタートを体験

「赤ちゃんと向き合う際の笑顔で市民と接してほしい」という願いのもと、新規採用職員の実地研修のひとつに、ブックスタートを導入しています。(健康推進課／鳥取県境港市)

<研修を受講した職員より>

- ・ 業務では、市民と話す機会が多くあります。笑顔で元氣よく挨拶すること。時にはユーモアも忘れずに、明るく対応すること。また、初対面の相手に対しても自分がリラックスして接することの大切さを、この研修を通じて学びました。(市民課)
- ・ ブックスタートは、これからの社会を担う子どもたちに向けた事業なので、取り組む側にも、あたたかい気持ちや夢や希望を与えてもらえます。また、ブックスタートの「地域・行政全体で子どもを育てていく」という理念は、他の事業や取り組みにも通じるものがあると感じました。(収税課)



職員研修の様子
(鳥取県境港市)



第5章

広報やフォローアップを行う



事業開始時の広報だけでなく、その後も充実したかたちで実施していることを市民に伝えていくことで、活動への共感の輪を広げることができます。

絵本を介したふれあいの時間が、多くの家庭で持たれることを継続的に応援することも大切です。親子で楽しめるイベントを企画したり、赤ちゃんと一緒に気兼ねなく過ごせる環境を地域に整えたりするなど、様々なフォローアップを計画してみてはどうでしょうか。そうした取り組みが、ブックスタートでまいた種を地域に根付かせてくれるかもしれません。

1 市民に広報する

ブックスタートについて広報を行うことは、子どもに対する行政の姿勢を市民に伝える絶好の機会です。また、事業関係者だけでなく、様々な立場の人に活動への参加を求め、理解者を増やすこともできます。

一般市民に事業をPRする

事業開始時だけでなく、様々なテーマを話題にし、継続的に広報を行います。対象者はもちろん、一般市民にも活動を知ってもらうことで、行政が子どもについての施策に力を入れていることを伝えられます。それは、「このまちで子育てがしたい」「ぜひブックスタートを継続してほしい」「自分も何か応援したい」といった意識を市民の中に生み出し、事業継続の後押しになるのではないのでしょうか。

➡ NPO ブックスタートでは、各地の広報事例などを紹介した冊子を発行しています。

取り上げるテーマの例

< 事業開始時 >

- ブックスタートの開始が決定したことや、実際に事業が始まったこと
- 事業開始にあたり、実行委員会やボランティアグループが設立されたこと
- 関係者が集まり、研修会が行われたこと

< 事業開始後 >

- ブックスタートのフォローアップ活動が行われたこと
(様々な機会でおはなし会や絵本に関するイベントを開催したことなど)
- 事業が始まったことによって、地域にもたらされた変化
(絵本の貸し出し数、子育て支援施設の来館者数が増加したことなど)
- アンケート結果の報告
- 事業開始から〇〇周年・対象者が△△人を超えたこと
- 対象者やボランティアの声

様々な機会・媒体を使っての広報

- 自治体広報紙・Web サイト
活動を広報紙で定期的に紹介します。会場の様子を自治体の Web サイトを通じて動画で紹介することもできます。
- ポスター・チラシ
市民が普段から足を運ぶ公共施設(保健センター、子育て支援センター、図書館、役所など)や、民間施設(駅やスーパーなど)に掲示することで、広く市民に活動を紹介します。
- 関係機関発行のチラシや資料など
図書館だより、保健だよりなどで、各分野の活動と併せて伝えます。
- マスメディア
新聞、テレビ、ラジオ、ケーブルテレビ、ミニコミ誌などにプレスリリースを出します。
- 常設／企画展示
パックの見本や親子の写真などを利用し、市民の目を引く展示を行います。



広報アイデア集
(A4/32 ページ)



対象者 5 万人達成記念式典の
プレスリリース
(千葉県柏市)



コミュニティ FM から広く市民に発信

地元コミュニティ FM の行政番組枠で、ブックスタートに関する情報を定期的に発信しています。活動紹介だけでなく、図書館で行われる季節の行事やおはなし会の告知、さらにはボランティア活動への参加も呼びかけます。図書館の来館者であれば、様々な事業について知る機会があるかもしれませんが、市民の中には来館したことのない人も多くいます。コミュニティ FM は、広く市民に広報できる媒体だと考えています。(図書館／岩手県花巻市)



ラジオ放送の様子
(岩手県花巻市)



読みきかせセミナーの開催／図書館・市役所での企画展示

事業の継続のためにはより多くの市民への周知が必要だと考え、読みきかせセミナーを開催。その様子は地元新聞でも取り上げられ、話題になりました。また、セミナーに併せて企画展示も実施。活動の意義や目的のほか、ブックスタート会場の様子やスタッフの写真、パックの見本、おすすめ絵本、対象者からの感想、県内でのブックスタートの実施自治体などを紹介しました。様々な世代の市民の目に留まるよう、図書館の入口や市役所で実施したところ、展示を見た人からとても好評でした。(図書館／沖縄県宜野湾市)



図書館での企画展示
(沖縄県宜野湾市)



講演会の開催に併せて事業を報告

市民を対象とした、赤ちゃんの発達に関する講演会を開催。当日は、ブックスタートの事業報告も行いました。この事業を行政や市民に広く認知してもらうことで、理解者を増やし、今後の事業の継続および予算獲得の原動力になればという思いから生まれた企画でした。

開催にあたり、ケーブルテレビに取材を依頼し、広報にも力を入れたところ、当日は子育て世代や孫のいる世代など、約 130 名の参加がありました。

事業報告では画像や動画をまじえて活動の様子を紹介したほか、会場にも写真や保護者の声を紹介したパネルを展示。参加者からは、講演会の内容に対する好意的な言葉だけでなく、事業についても「今後も続けてほしい」「これからも応援していきたい」などあたたかい励ましの言葉があり、事業に関心を持ってもらうよい機会となりました。(図書館／大分県中津市)



事業報告の様子 (上) と
展示内容 (下)
(大分県中津市)



10 周年を記念して保護者の感想文集を作成

10 周年を記念して、ブックスタートを受けた保護者を対象に感想文を募集。募集要項は新聞に掲載し、広く市民に呼びかけ、文集としてまとめました。さらに入賞者の表彰式も行い、改めて市民に事業を PR する機会になりました。(図書館／北海道稚内市)



保護者からの感想を
まとめた文集
(北海道稚内市)

「絵本を通じたまちづくりの姿」を特集記事に

自治体の広報紙は、行政情報を市民に届けることはもちろん、まちの営みや誇りを紹介し、まちを好きになってもらう役割があると思っています。

ブックスタートを取材した当初は、「ただ、絵本を配るだけだろう」と思っていたのですが、事業に携わっているボランティアをはじめ、図書館員、4か月児健診スタッフの源にあったのは、「次の世代のために何かしたい」「人のためだけではなく自分自身の喜びとしても」という熱意と純粋な気持ちでした。そしてその目は、子育てに悩み、奮闘している保護者の心のケアに向けられ、そこには確かな「絵本を通じたまちづくり」の姿がありました。

また、紙面を組むためには写真が必要です。赤ちゃんという誰もが癒される対象に加え、ボランティアや保護者のとびっきりの笑顔など、紙面を飾るには最高の素材がそろっていました。

そうしてでき上がった特集記事は、市民からの反響も大きく、その1年後、さらにその2年後にもブックスタートの特集を組みました。この事業に携わっている多くの方々の思いを言葉にできたことを、誇りに思っています。(経営政策課／広島県廿日市市)



< 1 回目 > 特集タイトルは「君が、はじめて本に出会うとき始まっています。ブックスタート」。活動概要、保護者や関係者の声などを、多くの写真とともに紹介。表紙にも親子の笑顔。



< 2 回目 > 絵本に関連する様々なトピックスのひとつとしてブックスタートを紹介。



< 3 回目 > 子育てを支える活動という視点から特集。ボランティア募集も掲載。

様々な世代が活動に参加する

中高生の職場体験や、対象者としてパックを受け取ったことのある保護者がボランティアになるなど、様々な立場や世代の人が活動に参加する地域が増えています。これからの地域を担う子どもたちが、赤ちゃんといふれあいながら、親が我が子を思う気持ちを知ること。かつて自分が受け取った、地域からのあたたかな思いを、後に続く親子にも届けていくこと。ブックスタートから生まれたそうしたつながりは、まちの未来をつくる礎にもなるのではないのでしょうか。

ブックスタートを受けた保護者がボランティアに

パックを受け取った経験を持つお母さんが、ボランティアとして活動しています。数年後に再び出会えたことが本当に嬉しいです。ブックスタートでは、人と人が「横」につながっていただけではなく、こうして時を超えて「縦」につながっていくこともできるのだと感じました。(ボランティア／愛知県西尾市)



2歳の我が子と一緒に活動するボランティア（左端）
(愛知県西尾市)

2 フォローアップ活動を行う

ブックスタートで絵本を開くきっかけを届けた後、赤ちゃんの成長過程でもそうした楽しいひとときが持てるよう、各地で「絵本」と「赤ちゃん」をテーマにした様々なフォローアップ活動が行われています。

フォローアップ活動の意義

ブックスタートで赤ちゃん和絵本を開く楽しさを知った保護者の中には、我が子ともっと色々な絵本を読んでみたいと思う人もいるでしょう。そうしたニーズに応えることで、ブックスタートで届けたきっかけが家庭の中に浸透し、絵本を介した時間を継続的に持つ親子が増えるかもしれません。

また、小さな赤ちゃん和家の中で二人きりという毎日に、孤独を感じる保護者もいます。赤ちゃんと一緒に参加できる催しを地域で行うことは、親子を地域とつなぎ、子育てを応援する具体的な施策となります。



3歳児健診での読みきかせ
(新潟県見附市)



保護者の声 足を運ぶきっかけがほしい

赤ちゃん連れでも出かけられる場所があると嬉しいです。でも、そうしたところに行ってみたくても、何かきっかけがないと、最初の一步が踏み出せない。だから0歳児向けのイベントをたくさん企画してもらいたいです。(F市)

絵本・赤ちゃんをテーマにした取り組みや催し

「絵本」「赤ちゃん」をテーマに、地域に生まれたすべての赤ちゃんとその保護者を対象としたさらなる取り組みや、絵本に関心を持った親子、もしくは保護者向けの催しなどを行います。

フォローアップ活動の例

- 「すべて」の親子が集まる母子保健事業で
ブックスタート後の健診などで、読みきかせ、月齢に合わせた絵本リストの配付、絵本の貸し出し、読書相談、再度絵本の手渡しなどを行います。
- 多くの赤ちゃんが集まる施設や場で
図書館、子育て支援センター、児童館、保育園、幼稚園、子育てサークルなど、赤ちゃん和保護者が足を運ぶ施設や場で、乳幼児向けのおはなし会や絵本の貸し出しなどを行います。
- 赤ちゃん対象のイベントで
子育てフェスタなど図書館以外の場所で行われる赤ちゃん向けの様々なイベントで、読みきかせや絵本の紹介をします。
- 絵本に関する情報を発信
絵本に関心を持つ保護者を対象に、絵本や読みきかせに関する講座を開催します。「お父さん向け」「おじいちゃん・おばあちゃん向け」など、対象者をあえて絞ることで、そうした人が参加しやすい機会をつくることもできます。
- 支援を必要とする子どもたちへ
外国語を母語とする子、障がいのある子、病院に入院している子、乳児院で暮らす子など、支援を必要とする子どもたちにも絵本の楽しいひとときを届けるため、様々な施設でおはなし会などを行います。



図書館員が地域に出向き、おはなし会(上)や本の貸し出し(下)、図書館カードの発行などを行う
(北海道岩見沢市)

事例

絵本を取り入れた母子保健事業を継続的に展開

子どもの成長過程において、語りかけは大切なものであり続けるという思いから、4か月児健診で行っているブックスタートのほか、両親学級、6～7か月児育児相談、1歳6か月児健診、3歳児健診といった様々な母子保健事業に、絵本の読みきかせを取り入れています。(子育て支援課／大分県日出町)



1歳6か月児健診での読みきかせ
(大分県日出町)

事例

「パパとジジジの読みきかせ講座」を実施

男性の育児参加を応援することを目的に、「パパとジジジの読みきかせ講座」を開催しました。当日は、親子連れや祖父母の参加もありました。参加者が実際に読んでみる場面もあり、参加型の楽しい講座になりました。(図書館／福岡県嘉麻市)



講座の様子
(福岡県嘉麻市)

事例

絵本の選書サービスを実施

3歳未満を対象とした絵本選書サービス「えほんくらぶ」を実施しています。忙しい保護者に代わり選書作業を図書館が担えば、負担なく絵本を借りてもらえるだろうと考えた企画です。

子どもの月齢や性別、保護者の要望などを参考に、1回につき5冊を選書。返却時に、読んだ時の様子をヒアリングしてその子の好みを把握し、次の5冊を選ぶ参考にします。3歳でサービスを終了する時には、これまでに貸し出した絵本の履歴と、保護者から聞いていた子どもの反応をリストにしてプレゼント。その子の読書記録になります。保護者からは「自分では選ばないような絵本と出会えてよかった」と大変好評です。私たちも、保護者との会話や選書を通して、その子の成長と一緒に見守ることができる喜びを感じています。(図書館／宮崎県日南市)



ブックスタートで手渡している
選書サービスのチラシ
(宮崎県日南市)

事例

おはなし会に保健師や歯科衛生士が参加

保健部局と連携し、図書館で開催する赤ちゃん向けのおはなし会で、保健師や歯科衛生士などが保護者に赤ちゃんの発達や歯に関する情報を提供する「すくすくあかちゃんタイム」「みんなではは」を行っています。当日は図書館員がテーマに合わせた絵本の読みきかせを行い、また、より理解を深められるよう関連の資料なども併せて紹介しています。参加者からは「図書館で気軽に保健師や歯科衛生士に相談できる」と大変好評です。(図書館／大阪府豊中市)



保健師がおはなし会に参加し、
赤ちゃんの計測も
(大阪府豊中市)

事例

多言語おはなし会の開催

外国籍住民の多い地域の図書館では、月に1回ずつ、英語と日本語、および韓国語と日本語のおはなし会を行っています。また、多文化関連の活動をしている団体や翻訳者などの個人とも連携し、様々な言語でのおはなし会や、民族衣装の試着などの楽しいイベントを開催。母語や母文化にふれられる機会を設けることによって、外国の方に自らのアイデンティティを大切にしてもらうこと、そして日本人に異文化を感じてもらうことを目指しています。(図書館／東京都新宿区)



同じ絵本を韓国語と日本語で
読みきかせ
(東京都新宿区)

3 赤ちゃんが訪れる施設の環境を整える

ブックスタートで地域の施設に関する情報を伝えても、その施設が赤ちゃん連れの親子にとって居心地のよい場所でなければ、本当の支援にはなりません。「地域みんなで子育てを応援しています」。その気持ちをかたちにして親子に伝えることも大切なのではないのでしょうか。

図書館の環境整備 ～赤ちゃん連れでも利用しやすく

0歳の赤ちゃんは、利用カードがつくれる立派な来館者。しかし、「赤ちゃんが泣いてしまったり、絵本を破いてしまったらどうしよう」と利用をためらう保護者も多くいます。また、図書館は静かに利用するものという意識から、赤ちゃんの来館について、他の利用者から理解が得られないケースもあるようです。親子が絵本を開くひとときを継続的に持つためには、そうした市民の意識を変え、誰もが安心して利用できる図書館の環境をつくることも必要です。

環境整備の例

- **赤ちゃん絵本コーナーの設置**
ブックスタートで手渡す絵本リストで紹介した本をはじめ、様々な絵本を親子が手に取れるよう、赤ちゃん絵本コーナーを設置します。
- **育児書などを保護者が手に取りやすい場所に配置**
子育てに関する本も読みたいという保護者のニーズに応え、育児書や離乳食本などの関連資料をそろえます。赤ちゃんを連れて館内をあちこち移動するのは大変です。絵本コーナーの近くに配置することで、保護者が手に取りやすくなります。
- **ベビーカーや授乳スペースの用意／安全性への配慮**
ベビーカーや授乳スペースを用意したり、飲食のできるコーナーをつくり、赤ちゃんの生活リズムに合わせて過ごせるよう工夫している地域もあります。また、赤ちゃん絵本コーナーのまわりにマットを敷くなど、安全性に配慮している地域もあります。
- **他の来館者の理解を得る**
赤ちゃんも図書館利用者であることを他の来館者に理解してもらい、あたたかく迎え入れる雰囲気をつくります。入口など、目立つところにベビーカーを配置したり、理解を求める掲示物を貼ることで、保護者も安心して赤ちゃんと共に来館することができます。



赤ちゃんと一緒にでも居心地のよい図書館
(千葉県柏市)



ベビーカーや授乳・おむつ替えコーナーの設置

入口の目立つところに貸し出し用のベビーカーを配置したり、靴を脱いで上がる児童書コーナーの一角にカーテンを設置し、授乳とおむつ替えができる場所を設置しました。今では一般の来館者への理解も広がり、赤ちゃん連れの親子にも気持ちよく利用してもらえていると思います。(図書館／北海道恵庭市)



カーテンで仕切って利用できる授乳・おむつ替えコーナー



入口に置かれたベビーカー

事例

図書館が子育てを応援していることをアピール

図書館では週に1日「親子で絵本を楽しむ日」を設定。ブックスタートでも活動しているボランティアが親子を出迎え、絵本の相談にのったり、読みきかせをしたりしています。また、保護者が借りる本を選んでいる間、子どもの面倒を見る「赤ちゃん抱っこサービス」も行っています。

こうした取り組みを始めたきっかけは、赤ちゃん連れの保護者がやっとの思いで図書館に来て、子どもがぐずって他の人に迷惑をかけてしまうのではとハラハラし、急いで用を済ませて帰っていく姿を見たことでした。「これではいけない。核家族化で孤立している親子も少なくない現代において、図書館は様々な人たちのコミュニケーションの場、子育てを応援する場でありたい」と思ったのです。

始めた当初、図書館はワンフロアで児童コーナーが仕切られていないため、子どもの声が響きやすく、他の利用者から意見が寄せられたこともありました。しかし、図書館の入口に看板を設置したり、職員から利用者に声をかけ理解を求めていく中で、今では図書館に赤ちゃんがいることはごく自然なこととなり、ブックスタートをきっかけに、赤ちゃんを連れて家族で来館する人も増えています。(図書館／山形県寒河江市)



入口に設置した看板(上)と、保護者が本を見ている間に子どもに読みきかせをするボランティア(下)(山形県寒河江市)

その他の施設での環境整備 ～絵本を身近な場所に置く

親子が出向く様々な場所で、絵本を手にとれる環境を整えます。図書館だけでなく、保健センター、子育て支援センター、児童館、保育園、幼稚園、小児科医院などの施設や、地域で行われるイベントの際に、絵本コーナーを設置したり、貸し出しを行ったりすることで、絵本を介して親子がふれあう機会を増やすことができます。



保健センターの絵本コーナー(京都府宇治市)

事例

マルシェに移動図書館車が参加

野外で開催される「kitokito マルシェ」(地元の野菜や食べ物、雑貨などが集まる市場)に、移動図書館車が定期的に参加。本の貸し出しやおはなし会などを行っています。図書館とはひと味違い、青空の下で本が楽しめる開放的な雰囲気が来場者に好評です。借りた本は後日図書館に返却するため、来館者数も増加。普段は図書館を利用しない親子との出会いの場にもなっています。(図書館／山形県新庄市)



マルシェでの様子(山形県新庄市)

事例

認可外保育施設にも絵本を配置する予算を計上

認可保育園だけでなく、認可外保育施設にも絵本のある環境を整えるため、各施設が希望する絵本を市から無償で提供する「認可外保育施設・絵本読みきかせ実施事業」を実施。読みきかせを保育の中に位置付け、絵本を介した豊かなコミュニケーションを提案することが狙いです。絵本の提供にあたり、各施設の担当者1名以上が研修を受けることを条件にしています。研修は受講しやすいよう、同じ内容を複数回、会場を変えて実施。こうした取り組みにより、現場の保育士の、絵本やブックスタートに対する理解は深まっています。(こどもみらい課／沖縄県那覇市)

ブックスタート・ハンドブック [第7版]
全国の実践事例を事業運営のヒントに

2018 年 4 月発行

NPOブックスタート

〒 162-0814 東京都新宿区新小川町 5-19 角田ビル 3 階

Tel : 03-5228-2891 Fax : 03-5228-2894

E-mail : infobs@bookstart.or.jp <http://www.bookstart.or.jp>

© Bookstart Japan 2018

※ ブックスタート事業関係者の情報共有を目的とした本冊子のコピーは可能です。

NPOブックスタート
Bookstart Japan